

中央地区



上町五社 かんまちごしゃ

「五社もうで」でにぎわった5つの神社

上町一帯は、島津氏の城下町として古くから開けてきたところである。上町五社にあたる五つの神社は、どれも島津氏と深いつながりを持ち、代々の当主が厚い信仰をよせてきた。

南方神社 ▶ みなかたじんじや

有形文化財／建造物

【MAP G-15】



稲荷町バス停近くにあり、別名 諏訪神社ともいう。建御名方命などを祭っており、五社の第一になっている。

島津家5代当主貞久が、南北朝時代に東福寺城を攻め落としてから、ここに建てたものである。この南方神社は代々当主の信仰が厚く、島津氏の氏神となっていた。

南方神社では毎年8月28日に大祭がおこなわれている。その日には諏訪市とよばれる市が開かれている。

- 所在地／鹿児島市稲荷町
- 駐車場／有
- 交通／稲荷町バス停

八坂神社 ▶ やさかじんじや

有形文化財／建造物

【MAP G-15】



八坂神社は祇園之洲にあり、素盞鳴命・稲田姫を祭り、五社の第二になる。

毎年7月25日前後の日曜日に行われる例祭は、「おぎおんさあ(祇園祭)」とよばれ、病気を追い払う祭りであったが、現在では商売繁盛を中心とした祭りに変わってきている。そして、この日にはぎやかな山車と踊りの行列が街をねり歩く。

- 所在地／鹿児島市清水町
- 駐車場／有
- 交通／シティビュー 祇園之洲公園前バス停

稲荷神社 ▶ いなりじんじや

有形文化財／建造物

【MAP G-15】



正一位稲魂神、瓊々杵命、伊弉册命を祭り、五社の第三になる。島津の祖、初代当主忠久の生母丹後局が源頼朝夫人政子の迫害を逃れて大坂の住吉まできた時に産気づき、やむを得ず住吉神社で忠久を産んだ。その時、稲荷大明神のお使いのきつねが照らした明かりに守られ風雨の夜であったにもかかわらず無事出産することができたという言い伝えから、建てられたといわれる。

忠久は薩摩入国の時、山門院野田に稲荷

大明神、次いで島津本庄（都城市）に島津稲荷を、また市来にも稲荷神社を建てた。のち9代当主忠国が市来の稲荷神社を、鹿児島に移したのが今の稲荷神社である。11月3日の例祭では大正（1912～1926）のころまでは流鏝馬も見られた。また稲荷の市が立って大いににぎわったといわれる。

- 所在地／鹿児島市稲荷町
- 駐車場／無(スペース有)
- 交通／稲荷町バス停

大龍小学校の東側にあり、五社の中の第五にあたる。応神天皇、神功皇后、玉依姫、仁徳天皇を祭っている。この神社は島津家5代当主貞久が建てたもので、代々当主を相続する時は必ず報告し、お祭りが行われた。この神社を明治初年までは、若宮八幡宮とよんでいた。

- 所在地／鹿児島市池之上町
- 駐車場／有
- 交通／大龍小前バス停

春日神社 ▶かすがじんじや

有形文化財／建造物 [MAP G-15]



奈良にある春日神社の分社で、五社の第四になる。神社が建てられた年代は明らかでないが、長谷場直純が東福寺城を築いた時、船着場にこの神社を建てたと伝えられている。

祭神は建甕槌命・経津主命・天兒屋根命である。

- 所在地／鹿児島市春日町
- 駐車場／無
- 交通／春日町バス停

若宮神社 ▶わかみやじんじや

有形文化財／建造物 [MAP G-15]



山川石でつくられた島津家歴代当主の墓がある

福昌寺は応永元年(1394)に島津家7代当主元久が石屋真梁を開山として建てた島津家の菩提寺であり、山号は玉龍山で宗派は曹洞宗である。

墓地には6代当主師久から、28代当主斉彬までの墓がある。

福昌寺は薩隅日三州の僧録寺で、諸国に多くの末寺をもち、薩摩藩の学問所としての重要な役割を果たしていたこともあり、僧侶も多いときには1500人を数えたといわれる。代々島津家の尊崇が厚く、寺領1350石で、藩内一の大寺院であった。

天文15年(1546)忍室文勝の時には、後奈良天皇の勅願寺となり、同18年(1549)にキリスト教を伝えたザビエルが鹿児島滞

在中忍室文勝と宗教上の問答を行ったところでもある。

住職の中には若い時の西郷隆盛や大久保利通を指導した円了無参もいた。これら住職の墓は、墓地の北側の一段高いところにある。

福昌寺は明治2年(1869)に廃仏毀釈で廃寺となっており、島津家歴代の墓地だけが残っていたが、寺跡には昭和26年(1951)に鹿児島玉龍高等学校が建てられた。

昭和28年(1953)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。

なお裏山の常安峰にも島津家の墓があり、ここには薩摩藩の最後の藩主となった忠義とその夫人、長男忠重らが静かに眠っている。



●所在地／鹿児島市池之上町 ●交通／玉龍高校前バス停 ●駐車場／無

南洲墓地 ▶ なんしゅうぼち

県指定／記念物／史跡

【MAP G-14】

西南戦争で亡くなった西郷隆盛ほか薩軍将士二千余名が眠る

西南戦争後、政府軍は県令岩村通俊の願いをきき、西郷隆盛以下40人を浄光明寺の境内に仮埋葬することを許した。このほか120人が、不断光院・草牟田・新照院の上・城ヶ谷の4ヶ所に埋葬された。明治12年(1879)有志の者が鹿児島市内に仮葬されていた220余人の遺骨をまとめて、知事の許可を得て、西郷以下の仮埋葬遺体と共に現在の位置に整然と改葬した。明治16年(1883)薩摩・大隅・日向・豊後などの各地で戦死した遺骨も集められ、この墓地に埋葬された。

ここには749基の墓石があり、明治10年(1877)西南の役に敗れた薩軍2023人の将士が眠っている。西郷隆盛を中心に桐野利秋、篠原国幹、村田新八、辺見十郎太、別

府晋介、桂久武の勇将をはじめ、鹿児島県令(初代県知事)大山綱良、わずか14才であった最年少の伊地知末吉、池田孝太郎、児玉5人兄弟や遠く西郷を慕って参加した山形県庄内の伴兼之・榊原政治の2名、福岡、大分、山梨の各県出身者の名も見られる。

もともこの墓地のある場所は時宗の浄光明寺があった所で、藤沢山清浄光寺(神奈川県)の末寺であった。

また、かたわらの南洲神社は、明治13年(1880)に建立されたが、昭和20年(1945)の戦災で焼失し、昭和32年(1957)に新たに社殿が造営された。

南洲墓地は昭和30年(1955)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市上竜尾町 ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／有

柱頭部や接合部分の装飾に高い^{ろうぞう}鑄造技術がみられる



南洲神社電燈は、大正2年（1913）集成館で製造され、鹿児島電気株式会社より西郷隆盛を祭る南洲神社に奉納されたものである。

電燈は、南洲神社拝殿の参道、石段を登つ

た両脇に2基対に立つ。高さ4.4m鑄鉄製で六角形の柱身部分、六方に開いた花卉型の形状をした柱頭部分、そして新しく更新された電燈部分とそれを支える脚部より構成されている。花卉状の柱頭飾りや各接合部の線型などの装飾など高い鑄造技術によって製造されている。

近代日本の礎となった旧集成館が製造した数少ない遺構である。

平成18年（2006）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市上竜尾町 ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／有

縄文遺跡の石碑 ▶じょうもんいせきのせきひ

山の幸・海の幸に恵まれた先人の生活がしのばれる



南洲公園の一角に縄文遺跡の石碑が建っている。

南洲公園の石段の下から大龍小学校、若宮神社、さらに春日神社あたりは、標高5～10mのやや小高い台地になっているが、縄文時代中期（約4000年～5000年前）にはすでに人々が住みついていた。まだ、今の鹿児島市街地の大部分が海であったころのことで

ある。

この台地の大龍小学校庭、若宮神社境内と公園、春日町岩崎家の敷地、電話局春日分室敷地から遺跡が発見され、発掘調査が行われた。

これらの遺跡からは土器のかげら、石斧、石鏃（矢じり）、軽石製品、猪などの動物の骨、椎の実など植物の加工品、若宮神社からは縄文後期の^{たてあないうきよあと}竅穴住居跡が発見されている。

また、縄文時代晩期、弥生時代、古墳時代の土器なども発見されており、数千年の長い時代にわたって人々が生活していたことを証明している。



●所在地／鹿児島市上竜尾町（南洲公園内） ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／有

大乘院跡 ▶だいじょういんあと

記念物／史跡

[MAP G-15]

島津家の祈願所であった



清水中学校の正門横に石塔がある。この清水中学校あたりは大乗院などの寺院のあったところである。大乗院は、島津家が最初は伊集院に建てた荘厳寺から始まり、島津家15代当主貴久によって今の場所に移されたといわれている。

島津家^{きんしよ}の祈願所として、代々の当主から厚い信仰を受けたため、領内の各地に多くの末寺があった。寺の規模はたいへん大きく、寺から南に向かって200mのところ、正門(仁王門、今の仁王堂のところ)、その間に10の支院が建ち並んでいた。

なお、清水中学校の校内には、大乗院第1世住職俊盛、第3世住職久誉、第12世住職覚山の墓や大乗院上水道石管などもある。寺跡の前の稲荷川に架かる橋が大乗院橋である。



●所在地／鹿児島市稲荷町(清水中学校一帯) ●交通／鼓川バス停 ●駐車場／無

鹿児島県民教育文化研究所 ▶かごしまけんみんきょういくぶんかけんきゅうしょ

国登録／有形文化財／建造物

[MAP G-15]

素材を活かし形式にこだわらない数寄屋造りの近代的和風家屋



重富島津家の屋敷跡に、地元の豪商藤武呉服店が宮大工に屋敷を建てさせ、昭和14年(1939)完成したものである。

数寄家造りで、各室の造作に民芸風意匠

や奇木を巧みに採用し、自由で創意あふれる構成を持つ。建築にあたっては、釘を1本も使用しなかったとのことである。

平成26年(2014)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地／鹿児島市春日町 ●交通／大龍小学校前バス停 ●駐車場／有

本立寺跡 ▶ほんりゅうじあと

市指定／記念物／史跡

【MAP G-15】

島津家初代から5代の廟所がある



清水町本立寺馬場にあった寺院で、時宗の浄光明寺の末寺である。島津家初代当主忠久から貞久まで5代を祭っており、今も石塔が5基残っている。

はじめ五道院とよび、19代当主光久の時、論語の「本立而道生」の語から本立寺と改められたと伝えられている。

平成元年（1989）、鹿児島市の記念物（史跡）に指定された。



●所在地／鹿児島市清水町 ●清水小学校前バス停 ●駐車場／無

清水城跡 ▶しみずじょうあと

記念物／史跡

【MAP H-15】

曲輪跡や空堀跡から当時の山城がしのばれる



清水中学校の裏山の一番高い所は、こんもりとした森になっている。このあたりは島津家7代当主元久によって城がつくられ、約160年間、島津家の居城となったところである。

この城は、清水城といわれ、裏山の山城と、中学校域にあった館の2つからなっ

おり、この城を中心にして城下町ができあがっていった。城の周辺には、おもに家臣が住み、福昌寺や諏訪神社の門前から納屋通り（現在の鹿児島駅付近）にかけては町人が住んでいた。

15代当主貞久は今の大龍小学校一带に城を築き、清水城から新しい城に移った。その城を内城とよんでいる。鹿児島市が今の上町方面から開けてきたのは、清水城、内城の2つの城が上町にできたこととつながりがある。



●所在地／鹿児島市稲荷町 ●交通／たんたどバス停 ●駐車場／無

藤島武二宅跡 ▶ふじしまたけじたくあと

記念物／史跡

[MAP G-15]

明治末から昭和期の洋画壇において指導的役割を果たした

慶応3年(1867)池之上町に生まれた。幼くして父と死別、西南戦争で2人の兄をも失い、老母と幼い弟妹をかかえ、生活は楽ではなかった。県立鹿児島中学校造士館在学中に郷土の画家平山東岳に四条派の絵画を学び、明治17年(1884)上京、川端玉章に日本画を学ぶ。また洋画も学び、明治29年(1896)東京美術学校に新設された洋画科の助教授となり、明治38年(1905)にフランスへ留学、5年後帰国し、美術学校教授、文展・帝展の審査員、帝国芸術院会員、帝室技芸員となり、昭和12年(1937)第1回文化勲章を受賞した。「裸體習作」

「中国風景」は市の文化財(絵画)に指定されている。



●所在地／鹿児島市池之上町 ●交通／玉龍高校前バス停 ●駐車場／無

森有礼誕生地 ▶もりありのりたんじょうち

記念物／史跡

[MAP G-15]

初代文部大臣であり、**魔刀論**を唱えた



り、明治元年(1868)帰国する。その後、外交官となり、代理公使としてアメリカに行くなど活躍する。

有名な魔刀論で一時政府を去るものの、明治18年(1885)伊藤内閣の初代文部大臣となり、小学校から大学までの学校制度を整えるなど、日本の教育制度の基礎を確立した。

明治22年(1889)2月11日大日本帝国憲法発布の日、刺客に襲われ、翌日亡くなった。



弘化4年(1847)この地で生まれ、藩校造士館と開成所(藩の洋学校)に学び、文久3年(1863)16歳で薩英戦争に参加した。慶応元年(1865)、薩摩藩英国留学生としてイギリスに留学し、その後、米国に渡

●所在地／鹿児島市池之上町 ●交通／春日町バス停 ●駐車場／無

孝行橋碑 ▶ こうこうばしひ

記念物／史跡

さんごくめいしほすえ

三国名勝図会によると、病気の母親の面倒を一生懸命にみた池田正右衛門のことが、鳥津家21代当主吉貴の耳に届き、ほうびとしてこの地に屋敷をもらったとある。その屋敷の近くに橋があり、その橋が「孝行橋」と呼ばれるようになった。



【MAP F-15】



●所在地／鹿兒島市上本町（秋葉神社内） ●交通／堅馬場入口バス停 ●駐車場／無

旧射圃記 ▶ きゅうしゃぼき

記念物／史跡

【MAP G-15】

応永20年(1413)鳥津家8代当主久豊が菱刈氏を討とうとして出陣した後、伊集院頼久が清水城を攻めた。清水城が危機に際したとき、上町の篠原新右衛門が人々に呼びかけて防ぎ戦った。激しい戦いで数十人の死者が出た。

久豊は市井の人々が困難に殉じたことを賞め、人々に土地を与え弓の稽古をさせた。その後、泰平の日々が続き弓の稽古をする者もいなくなり、射圃は顧みられなく

なった。寛政8年(1796)、町役人が中心となり射圃を復活することになった。これらのが記されている。



●所在地／鹿兒島市福荷町(南方神社裏) ●交通／福荷町バス停 ●駐車場／無

岩村県令記念碑 ▶ いわむらけんれいきねんひ

記念物／史跡

【MAP G-14】

岩村通俊は、土佐(高知県)出身の鹿兒島県令(知事)である。

西南戦争で敗れた西郷軍の戦死者の遺体を丁寧に葬った。自ら戦死者の墓標を書き、西郷隆盛の考えは、必ず世の中の人々にわかってもらえることを信じていた。

のち北海道長官、農務大臣を務めた。



●所在地／鹿兒島市上竜尾町(南洲神社境内) ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／有

浄光明寺跡 ▶じょうこうみょうじあと

記念物／史跡

【MAP G-14】



浄光明寺は、弘安7年(1284)鳥津家初代当主忠久13回忌のとき建てられたといわれる。薩摩では最も古い時宗の寺で、薩摩に

鎌倉仏教が入ってきた最初とされている。

浄光明寺は2回ほど焼けたが、そのたび再建され、明治初年の廃仏毀釈で廃寺となった。

現在、浄光明寺跡は南洲公園となり、その一角に再建された浄光明寺がある。



●所在地／鹿児島市上竜尾町(南洲公園内) ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／有

大龍寺跡 ▶だいらゅうじあと

記念物／史跡

【MAP G-15】



慶長7年(1602)鳥津家18代当主家久は鹿児島城に移ったのち、この地に寺堂を建

て、大龍寺と名付けた。大龍とは15代当主貴久の戒名(大中)と16代当主義久の号(龍伯)の一字ずつを合わせたものである。

大龍寺の初代住職は南浦文之であった。



●所在地／鹿児島市大竜町(大龍小学校内) ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／無

藤原(川上)昌久墓碑 ▶ふじわら(かわかみ)まさひさびし

記念物／史跡

【MAP G-15】

鳥越坂をしばらく上ると、右側の住宅の庭の奥に、大きな石碑がある。この碑は昌久の子孫の久東が、昌久の不幸な死を悼んで正徳2年(1712)に建てたものである。

藤原昌久は末弘綱秀を斥けようと鳥津家14代当主勝久を諫めたが入れられず、よって綱秀を谷山皇徳寺で殺害した。しかしこのことが勝久の怒りにふれ自刃した。



●所在地／鹿児島市稲荷町(宅地裏) ●交通／稲荷町バス停 ●駐車場／無

薩藩水軍港跡 ▶さつぱんすいぐんこうあと

記念物／史跡

【MAP G-15】

今の春日神社のあたりは昔は海で、薩摩藩の水軍港があったところである。貞享5年(1688)頃、このほりにには御船手(藩船を管理する役所)や船魂神社があった。



●所在地／鹿児島市春日町(春日神社境内) ●交通／春日町バス停 ●駐車場／無

伊東祐亨元帥誕生地の碑 ▶いとうすけゆきげんすいたんじょうちのひ

記念物／史跡

【MAP G-15】

鹿児島市清水町に生まれ、海軍にはいり、明治22年(1889)、海軍大学校長になった。日清戦争では、連合艦隊司令長官となり、敵将の丁汝昌の才能を惜しんで助けようとした話は有名である。

のちに元帥となった。(実際に生まれた

のは、稲荷川の川べりであり、小さな碑がある。)



●所在地／鹿児島市清水町(清水小学校敷地内) ●交通／清水小学校前バス停 ●駐車場／無

仁王堂の水 ▶におうどうのみず

記念物／史跡

【MAP G-15】

大乗院の正門を仁王堂とよび、その近くから湧き出ている泉を仁王堂水とよんでいた。この水は茶、酒づくりによく、清水町の名もこれから起こったといわれている。現在湧き水は水道水として使われ、小さな祠には石造りの菩薩像が置かれている。



●所在地／鹿児島市清水町(清水小隣) ●交通／清水小学校前バス停 ●駐車場／無

桐野利秋屋敷跡 ▶きりのとしあきやしきあと

記念物／史跡

【MAP G-15】

桐野利秋は明治7年(1874)、太鼓橋から清水馬場へ移り住んだ。

西南戦争後の明治11年(1878)、利秋の妻久が相続している。



●所在地／鹿児島市清水町 ●交通／清水小学校前バス停 ●駐車場／無

奈良原助八殉死之碑 ▶ならはらすけはちじゆんしのひ

記念物／史跡

【MAP G-15】

奈良原助八は山城国賀茂の出身で、16歳の時、島津家11代当主忠昌に仕えた。忠昌は文明6年(1474)、わずか12歳で父立久の跡を継いだ。永正3年(1506)大隅の肝付氏が反乱を起こしたため、忠昌は同5年(1508)年2月15日に失意のうちに清水城内で自刃して果てた。

当時25歳であった奈良原助八は、福昌寺門外の楠木の下で親族や友人に遺書をしたためた後、忠昌に殉死している。助八の死は島津

家における初めての殉死といわれ、その場所に六地藏塔が建てられて供養された。現在ある石柱は塔の一部であると思われる。



●所在地／鹿児島市池之上町 ●交通／玉龍高校前バス停 ●駐車場／無

砲術館跡 ▶ほうじゅつかんあと

記念物／史跡

【MAP G-15】

この地は、島津家27代当主斉興が政策の重点課題とした海防と武備の中の洋式砲術の訓練所の跡である。アメリカのモリソン号が、山川沖に来航した天保8年(1837)を機に斉興は洋式砲術の採用を決めた。

翌年、島居平八・平七兄弟を長崎に派遣して、高島秋帆の洋式砲術を学ばせた。そして、弘化4年(1847)8月、砲術館をこの地に開き、平七(改名して成田正右衛門)を師範役とした。嘉永元年(1848)9月、吉野原で砲術の訓練を

始めた。同時に砲台の建設も始めた。大砲鑄造や小銃を造る場所は、上町築地(現在の浜町)の弁天社のかたわらに建設したといわれる。



●所在地／鹿児島市大竜町 ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／無

市来四郎屋敷跡 ▶いちきしろうやしきあと

記念物／史跡

【MAP G-15】

幕末から明治維新のころの薩摩藩の歴史を記録した歴史学者市来四郎は、文政11年(1828)、城南の南新屋敷で生まれ、のちに稲荷神社の川向かいの稲荷川沿いに20歳まで住んでいた。

島津久光、29代当主忠義父子の依頼を受けて島津家の史料を編集したり、また明治になってからは政府の命を受け、薩摩藩関係資料を集め、「島津家国事執筆資料」の編集を

行った。とくに斉彬公資料・忠義公資料は三百数十巻にもものぼるもので、貴重な歴史資料となっている。



●所在地／鹿児島市稲荷町 ●交通／稲荷町バス停 ●駐車場／無

大龍遺跡 ▶だいらゅういせき

記念物／史跡

【MAP G-15】

大龍遺跡は、近くの若宮遺跡、春日町遺跡などとともに、大龍遺跡群と呼ばれ、埋蔵文化財の包蔵地（遺跡）として、早くから知られていた。ここ大龍小学校では、過去9回の発掘調査が行われ、多くの貴重な資料が得られている。

これまでの調査の結果、縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世、近世と各時代にわたっ

ての遺物が発見され、人々の生活の跡を確認することができる。



●所在地／鹿児島市大竜町(大龍小学校内) ●交通／シティビュー 南洲公園入口バス停 ●駐車場／無

愛宕神社 ▶あたごじんしゃ

有形文化財／建造物

【MAP G-15】

神社は愛宕山の山上にあつて、弘治2年(1556)、島津家15代当主貴久が創建し、18代当主家久が再建したという。明暦3年(1657)の不動明王石祠をはじめ、当時のものと思われる石碑などがある。



●所在地／鹿児島市稲荷町 ●交通／稲荷町バス停 ●駐車場／無

びくに坂 ▶びくにさか

記念物／史跡

【MAP G-14】

市営バス冷水線のびくに坂バス停から右手の旧道を通って冷水バス停までのゆるやかな坂道で、びっくり坂とも呼ばれている。坂の上の興国寺(現在は墓地)に尼さんがおり、尼さんのことを比丘尼ということから、この名が生まれたのだという。



●所在地／鹿児島市冷水町 ●交通／びくに坂バス停 ●駐車場／無

水道発祥の地 ▶すいどうはっしょうのち

記念物／史跡

【MAP G-13】

享保8年(1723)、島津家22代当主継豊が、このあたりの湧水を石管で鹿児島城に送水し、余った水は城下の住民に飲水として配水した。

これが鹿児島での上水道の始まりといわれ、鹿児島市近代水道50周年記念として石碑が建てられた。



●所在地／鹿児島市冷水町(第一水源池隣 児童公園内) ●交通／冷水町バス停 ●駐車場／無

伊地知季安の墓 ▶ いじちきあんのはか

記念物／史跡

【MAP G-14】

現在、興国寺跡は墓地となり、多くの由緒墓があるが、薩摩藩の代表的な歴史家伊地知季安、季通の墓もある。季安は天明2年(1782)生まれで、嘉永5年(1852)、島津家28代当主斉彬に認められて記録奉行まで進んだ。彼の代表的な編書「旧記雑録」は、藩内の日記、古文書を年代的に考証して編纂したもので、藩政の基本資料であり、362巻から構成されている。前編、後編は季安の記述

で、追録以降は次男季通らが継承し、明治30年(1897)頃に完成したといわれる。



●所在地／鹿児島市冷水町(興国寺墓地内)

●交通／びくに坂バス停

●駐車場／無

日当山侏儒どんの墓 ▶ ひなたやましゅじゅどんのはか

記念物／史跡

【MAP G-14】

日当山侏儒どんは、鹿児島県の笑い話・頓知話の主人公である。

死したが、最後まで一代の奇人らしいものだった。時に寛永11年(1634)1月16日、享年51歳であった。

島津家18代当主家久と19代当主光久に仕え、御鷹師から日当山の地頭になった徳田大兵衛がその人で、侏儒というのは、一寸法師のことである。薩摩旧伝集によると、身長わずか三尺(約1m)ほどの小男だったが、藩公の前で頓知話などを語り、当時の文化人南浦文之をも感心させたとある。

都城の北郷殿宅で餅を喉につまらせて頓



●所在地／鹿児島市冷水町(興国寺墓地内)

●交通／びくに坂バス停

●駐車場／無

矢上城跡 ▶ やがみじょうあと

記念物／史跡

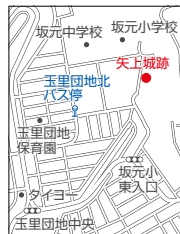
【MAP H-14】

矢上城は、催馬楽城ともいう。南北朝時代の康永3年(1344)、南朝方の城主矢上左右衛門高純が、島津家5代当主貞久と戦い、敗れた城である。矢上城を築いたのは、鹿児島郡司(令制の地方行政官)であった矢上国秀(高純の父)である。

く、最後まで南朝のために戦った。

昭和の初めごろまで樹齢800年の老松や石垣のあとが残っていたといわれる。

島津氏は、文治元年(1185)、鎌倉から島津荘下司職として薩摩(出水)に入り、勢力をのぼしてきた。島津氏は、足利尊氏との縁故関係で北朝につき、矢上氏は、謹王の志が厚



●所在地／鹿児島市玉里団地3丁目(坂元小近く)

●交通／玉里団地北バス停

●駐車場／無

川口雪蓬(量次郎)の墓 ▶かわぐちせっぽう(りょうじろう)のはか

記念物／史跡

【MAP H-14】

西郷の書の師であり、最後まで西郷家の面倒をみた



川口雪蓬は、陽明学を修めた謹王家であった。京都で幕府から警戒人物とされ、薩摩に逃れて藩に仕えることになったが、藩の書物を書庫から持ち出すなどしたので、文久2年(1862)、沖永良部島に流された。前後して島に流されてきた西郷隆盛

と交わり、達筆家であったことから、西郷の書の師となり、西郷の書風に大きな影響を与えた。

許されて鹿児島に帰ってからも西郷家に身を寄せ、家事の世話や子どもたちの家庭教師を引き受けた。雪蓬は、西郷の人柄を深く尊敬して、西南戦争の時は留守宅の人たちと西別府の野屋敷に避難し、西郷亡き後も生活を共にして、一家の面倒をみた。

南洲墓地の西郷隆盛の墓石の文字は雪蓬が書いたものである。



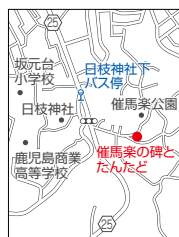
●所在地／鹿児島市坂元町(坂元墓地内) ●交通／坂元郵便局前バス停 ●駐車場／無

催馬楽の碑とたんたど ▶せばるのひとたんたど

記念物／史跡

【MAP G-14】

碑文によると催馬楽の地名は、昔ここに住んでいた隼人族が、催馬楽という神楽を演ずる習わしがあったことから起こったとされている。隼人族は奈良時代の頃から京都に上り、宮廷を警備しながら、朝廷の前でこの催馬楽を演奏したという。催馬楽の近くに「たんたど」と呼ばれる地区がある。この地名は隼人族が催馬楽を演奏するときの鼓の音からきたとか、近くの水路の音に由来するとかいわれている。



●所在地／鹿児島市坂元町 ●交通／日枝神社下バス停 ●駐車場／無

名越佐源太屋敷跡 ▶ なごさげんたやしきあと

記念物／史跡

【MAP H-15】

名越左源太は、文政2年(1819)に、下竜尾町に生まれた。槍術・兵学・剣道・弓道にすぐれ、また和歌・絵画・医術・書道にも巧みであったといわれる。島津斉彬を28代当主にしようとした嘉永2年(1849)のいわゆるお由羅騒動の巻き添えにあつて奄美大島に遠島になった。

その後、斉彬が当主になって罪を許され、安政2年(1855)に帰藩したが、大島にいた5年間の著書「南島雑話」は、その取材が広範囲で観察・記述にもすぐれ、民

俗学・生物学的にも高く評価されている。同じく著書「遠島日記」は、当時の奄美大島の実情を知る貴重な記録だといわれている。



●所在地／鹿児島市東坂元4丁目 ●交通／たんたどバス停 ●駐車場／無

高崎正風翁の碑 ▶ たかさきまさかぜおうのひ

記念物／史跡

【MAP G-14】

天保7年(1836)、冷水町の比丘尼坂下の武家屋敷に生まれ、お由羅騒動にまきこまれ、父は自刃、正風も大島に流された。

その後、八田知紀について和歌を学び、桂園派歌人として有名になり、明治21年(1888)に宮中の御歌所長となった。



●所在地／鹿児島市長田町(南風病院横) ●交通／長田神社下バス停 ●駐車場／無

琉球館跡 ▶ りゅうきゅうかんあと

記念物／史跡

【MAP F-14】

慶長14年(1609)、島津家18代当主家久は琉球に兵を出して、琉球を薩摩藩の支配下においた。

その後、毎年正月に琉球からやってくる使者の滞在する場所を琉球仮屋といっていたが、天明3年(1783)からは琉球館とよぶようになった。琉球からのいろいろな産物を取りあつかい、藩に大きな利益をもたらした。



●所在地／鹿児島市小川町(長田中学校敷地内) ●交通／堅馬場入口バス停 ●駐車場／無

横山安武・森有礼成育の地 ▶よこやますたけ・もりありのりせいいくのち

記念物／史跡

【MAP F-14】

森有礼と兄・横山安武は春日町の春日神社の近くで生まれた。ここは二人が育ったところである。

森有礼は初代文部大臣。横山安武は明治3年(1870)時弊10箇条を挙げた書を集議院門前に掲げ自決した。



●所在地／鹿児島市長田町 ●交通／長田神社下バス停 ●駐車場／無

開成所跡 ▶かいせいしょあと

記念物／史跡

【MAP F-15】



元治元年(1864)6月島津家29代当主忠義は、科学や軍事に関する人材育成のために洋学校である開成所を設立した。これは28代当主斉彬が計画し、かつて、石河確太郎に設立準備を命じていた。開成とは開物成務の略で人知を開発し、仕事を成し遂げ

ることを意味している。場所は琉球館の海岸寄りにあったとされ、現在の小川町滑川市場の付近と考えられる。学習科目は陸海軍砲術、兵法、地理、航海、測量、医学に至るまで多岐にわたった。当時の様子を示すものはないが、ここで教授をしていた郵便制度の創設者である前島密のことを記したポストが建っている。



●所在地／鹿児島市小川町 ●交通／水族館口電停 ●駐車場／無

鳥羽伏見の戦いで負傷兵の治療に活躍したウィリスを招聘



明治元年(1868)10月、薩摩藩ではそれまでの漢方医学に西洋医学を取り入れた医学学校を浄光寺跡(現在の南洲神社)に設立し、明治2年(1869)には西郷、大久保の推薦で東京から英国人医師ウィリアム・ウィリスが招かれ、校長兼病院長に就任し

た。その後、医学学校は小川町に移され、病院は滑川沿いの赤レンガの洋館建に移された。ここは窓が小さく、一見倉庫のように見えたので赤倉病院と呼ばれ、人々に親しまれたが、西南戦争が始まるとウィリスも鹿児島を去り、医学学校は廃止された。

ここでは多くの医学生が養成され、県の近代医学の始まりとなったばかりでなく、当時の西日本における医学の中心だった。鹿児島大病院の庭にはウィリアム・ウィリスの業績をたたえる記念碑が建っている。



●所在地／鹿児島市小川町 ●交通／堅馬場入口バス停、又は水族館口電停 ●駐車場／無

五代友厚誕生地 ▶ごだいともあつたんじょうち

大阪商工会議所を設立するなど商工業都市大阪の発展につくした



天保6年(1835)、長田町城ヶ谷に生まれた。慶応元年(1865)に薩摩藩英国留学生を率いてイギリスに渡り、ヨーロッパ各国をまわった。帰国後は鹿児島・長崎・大坂間に開運丸を走らせ、商工業の発展に努め、

長崎には日本最初のドックをつくった。

明治維新では西郷や大久保とともに活躍し、政府の重要な職についたが、明治2年(1869)には官職を辞して、大阪の実業界にはいった。

西南戦争の終わった翌年には商工会議所を設立し、初代会頭となり、大阪の商工業の発展につくした。今日の大阪の土台を築いたとして、大阪商工会議所の前にも銅像が建てられている。



●所在地／鹿児島市長田町 ●交通／長田神社下バス停 ●駐車場／無

わが国における内戦の最後の舞台となった

城山は、鹿児島市の中心に横たわる標高約107mのシラスからなる丘陵であり、わが国の南西暖地の植物群落の特色となっている照葉樹林が、原生林に近い姿で残っていることは、極めて貴重である。

また、南北朝時代（1336～1392）上山氏が築城した山城（上山城）の土塁遺構を残し、近世鹿児島城の城域の一部を形成した史跡でもある。

南北朝時代においては上山氏の居城（山城）であったが、江戸時代のはじめに、鹿児島城の後背地として城の一部となり、一般の立入禁止の区域ともなっていた。このため、植物学上からも、日本南岸の固有の自然林を形成し、植物の宝庫と呼ばれ、南九州植物分布の縮図といわれている。都市の真ん中に約500種もの植物が茂っているところは、全国でも例がない。なかでも有名なものは「楠」で、元ウィーン大学総長で世界的な植物学者でもあるモーリッシュ博士によって、全世界で紹介された。

楠の樹齢ははっきりとはしないが、古いものは樹齢400-500年と推定されている。

その他、常緑樹ではバクチノキ（バラ科）、ショウベンノキ（ミツバツギ科）、バリバリノキ（クス科）等といった珍しい名前のももある。

城山が、県・市民の心に今も深く印象づけられているのは、明治10年（1877）9月、西南戦争の終結に際し、西郷隆盛を中心とする薩軍の本営となり、9月1日から同24日までの苦闘の末に力つき、最後の政府軍総攻撃を受けて、城山の露と消えたところでもあるからである。

昭和6年（1931）、国の記念物（史跡）・天然記念物（植物）に指定された。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交 通／シティビュー 城山バス停 ●駐車場／有

弾痕跡が西南戦争の激しさを物語る

明治6年(1873)10月、いわゆる征韓論に破れ、下野して鹿児島に帰って来た西郷隆盛は、一緒に官職を辞して帰郷した多数の青年のために、桐野利秋、篠原国幹、大山県令などと共に拠出金で私学校を設立した。

この鹿児島城の旧鹿跡^{うまの}跡に建てられた私学校は、銃隊学校と砲術学校からなり、篠原国幹、村田新八が指導にあたった。本校の他に市内^{ほうきり}各方限や地方にも分校が設けられた。

明治9年(1876)末頃は県内のすべての郷内に設立され、青少年の多くが学んだという。

西南戦争では私学校周辺は激戦地となり、当時の弾痕跡が今も石堀に残っている。この石堀は、鹿児島城の鹿の周壁として構築されたもので、築城とほぼ同じ頃であるとされる。また西南戦争の当時の面影をよく残している。

昭和43年(1968)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交通／県民交流センター前(裁判所前)バス停 ●駐車場／無

城山を背にした天守閣を持たない屋形造りの簡素な居城

鹿児島(鶴丸)城は慶長7年(1602)、島津家18代当主家久によって造られ、城山の地形が鶴が翼を広げた形になっているところから鶴丸城とよばれた。城中は本丸と二の丸からなり、天守閣を持たない屋形造りで、77万石としては簡素な居館であった。それは「人をもって城となす」という薩摩藩独特の外城制によるものであるといわれる。城は背後の城山までも取り込んでおり、中世の山城的な構成となっている。名山堀や俊寛堀は外堀の一部であった。

明治維新まで270年間、薩摩の統治所となった鹿児島(鶴丸)城は、明治6年(1873)

に本丸が焼け、明治10年(1877)西南戦争で二の丸も焼けた。その後、旧制七高、鹿児島大学の敷地となり、現在は二の丸庭園跡に県立図書館が建設され、本丸跡には黎明館が建設された。

現在では、石垣・桜門の跡・濠・欄干橋などが当時の面影をとどめている。

昭和28年(1953)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。



●所在地/鹿児島市城山町 ●交通/県民交流センター前(裁判所前)バス停 ●駐車場/無

西郷隆盛洞窟 ▶さいごうたかもりどうくつ

市指定／記念物／史跡

【MAP F-14】

総攻撃を受けるまで西郷が起居した洞窟



西郷隆盛は、明治10年(1877)9月19日から同24日未明に至る6日間、この洞窟で起居した。

しかも、薩軍と政府軍との城山攻防戦という西南戦争の最終段階において、政府軍

の城山包囲網の中、西郷隆盛はこの洞窟で過ごし、最後まで薩軍の指揮をとっていた場所として、重要な史跡である。

現在の洞窟の規模は、奥行きが4m、間口が3m、入口の高さは2.5mである。

昭和49年(1974)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交通／シティビュー 西郷洞窟前バス停 ●駐車場／無

西郷隆盛終焉の地 ▶さいごうたかもりしゅうえんのち

市指定／記念物／史跡

【MAP F-14】

銃弾を受け歩けなくなった西郷は別府晋介の介錯で自刃した



明治10年(1877)9月1日、熊本、大分、宮崎と各地を転戦した薩軍は再び鹿児島へ帰ってきた。一時混乱した官軍も次第に薩軍を城山へ追いつめ十重二十重に包囲した。やがて官軍の砲撃が激しくなると、薩

軍は本陣を岩崎谷の洞窟へ移し、ここで西郷は最後の6日間を過ごした。

9月24日未明、官軍の総攻撃が始まると、西郷は桐野利秋、村田新八などの諸将とともに岩崎谷を下って行き、谷の入り口付近で銃弾を受け歩けなくなったので、「晋どん、晋どん、もうここでよか」と別府晋介に介錯を頼み、自決した。

明治32年(1899)に西郷終焉之碑が建てられ、昭和49年(1974)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交通／シティビュー 薩摩義士碑前バス停 ●駐車場／無

薩摩義士の碑 ▶さつまぎしのひ

記念物／史跡

【MAP F-14】

宝暦治水の犠牲となった平田靱負以下80余名の遺徳をしのぶ



宝暦3年(1753)幕府は薩摩藩に木曾川の治水工事を命じた。幕府では、外様の大藩である薩摩を常に警戒し、その財政力を弱めるためであったという。

島津家24代当主重年は、家老平田靱負を

総奉行に総勢約1000人を木曾川へ派遣した。工事は困難をきわめ、病死や自決者も続出した。宝暦5年(1755)3月には工事も完成し、5月には幕府の検査も完了したが、平田靱負以下80余名の犠牲者と莫大な借金が後に残った。

この碑は大正9年(1920)に宝暦治水の薩摩義士を顕彰するために建てられた。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交通／シティビュー 薩摩義士碑前バス停 ●駐車場／無

西郷隆盛銅像 ▶さいごうたかもりどうぞう

記念物／史跡

【MAP F-14】

城山を背に堂々と立つ軍服姿の西郷隆盛



市立美術館の一角に、明治維新で活躍した西郷隆盛銅像が立っている。

この像は、台座から8mもある大きいもので、昭和12年(1937)に除幕され、陸軍大将の礼装をしている。そして、東京上野

にある高村光雲作の西郷隆盛とよい対照をなしている。

この銅像は、東京渋谷駅前にある有名な「忠犬ハチ公」をつくった郷土の彫刻家安藤照が8年間もかけて完成させたものである。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

鹿児島県立博物館(旧鹿児島県立図書館) ▶かごしまけんりつはくぶつかん(きゅうかごしまけんりつとしょかん)

国登録/有形文化財/建造物

[MAP F-14]

曲面を隅部に用いたダイナミックな構成



昭和2年(1927)に県立図書館として建設された。

昭和55年(1980)に新しい図書館が鹿児島城二の丸跡に建設されると、県立博物館の本館として再出発した。天然記念物とし

て県の文化財に指定されている「ウシウマの骨格」など、多くの貴重な資料が展示されている。

平成20年(2008)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地/鹿児島市城山町 ●交通/西郷銅像前バス停 ●駐車場/有(黎明館駐車場)

中央地区

県立博物館考古資料館 ▶けんりつはくぶつかんこうしりょうかん

国登録/有形文化財/建造物

[MAP F-14]

和風洋式ともいえる特異なデザインの和洋石造建築物



明治16年(1883)県立興業館として建設されたもので、現存する鹿児島の石造建築では磯の尚古集成館に次いで古く、代表的な洋風建築の一つである。その後、商工奨励館として使用されてきたが、昭和20年

(1945)戦災のため内部を焼失した。昭和26年(1951)県立博物館となり、その後県立博物館考古資料館となっていたが、建物の老朽化にともない、現在閉鎖されている。

平成10年(1998)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地/鹿児島市城山町 ●交通/西郷銅像前バス停 ●駐車場/無

世界で初めて精子が発見されたソテツ ▶せかいではじめてせいしはがっけんされたそてつ

県指定／記念物／天然記念物(植物)

[MAP F-14]

世界で初めて、このソテツから精子が発見された



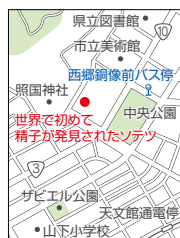
このソテツは、県立博物館考古資料館前に植栽されている。

東京帝国大学農科大学助教授であった池野成一郎は、ソテツの受精した胚珠を観察して、精子を発見し、明治29年(1896)植物学雑誌10号に論文「ソテツの精虫」とし

て発表した。これは、世界で初めての偉業であった。この精子発見は、裸子植物が雌の生殖器官として胚珠(種子)を進化させながら、雄の生殖細胞としては原始的な精子を保持し原始的な特徴と進化した特徴を併せ持っていることを明らかにしたものである。

なお同年、イチヨウの精子を発見した平瀬作五郎とともに日本学術史上重要な成果となった。

平成20年(2008)、鹿児島県の天然記念物(植物)に指定された。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

照国神社 ▶てるくにじんじや

有形文化財／建造物

[MAP F-14]

名君・島津斉彬を祭神とし、鹿児島市の産土神として親しまれる



祭神は島津家28代当主斉彬で、文久3年(1863)、天皇から照国大明神の神号が授けられ、翌年の元治元年(1864)、南泉院跡に社殿が建てられ、照国神社となった。明治10年(1877)、西南戦争により社殿、宝

物を焼失、明治15年(1882)に復興されたものの、昭和20年(1945)戦災で再び焼失し昭和33年(1958)復興造営された。今は鉄筋コンクリート造りになっている。

また、入口にある鳥居は昭和4年(1929)の建設で、昭和3年(1928)の御大典を記念して建てられたもので、高さが19.8mもある大鳥居である。

照国神社は島津斉彬を祭る神社として、多くの参拝者でにぎわっている。



●所在地／鹿児島市照国町 ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／有

県政記念館（旧鹿児島県庁舎本館） ▶けんせいきねんかん（きゅうかごしまけんちょうしゃほんかん）

国登録／有形文化財／建造物

【MAP F-14】

大正期のネオ・ルネッサンス様式建築物

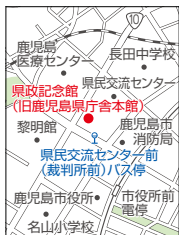


大正期におけるネオ・ルネッサンス様式による県庁舎建築で、中央は3階建てとして、玄関車寄せのトスカナ式（ローマ時代の建築様式）の双柱に、2階のイオニア式（ギリシャ時代の建築様式）の柱を重ね、

威厳ある正面を造り上げている。

大正14年（1925）に完成した。

平成20年（2008）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市山下町 ●交通／県民交流センター前（裁判所前）バス停 ●駐車場／有（県民交流センター駐車場）

中央地区

旧鹿児島県庁舎正面門 ▶きゅうかごしまけんちょうしゃしょうめんもん

国登録／有形文化財／建造物

【MAP F-14】

県庁舎本館と同じ大正14年に建設



旧鹿児島県庁舎正面門は、本館と同じ大正14年（1925）に建設された。

間口4.0m、高さ2.5m規模の本柱と西南に高さ2.8mの脇柱を配する。共に花崗岩製で、台座・柱身・笠石の3層構成をとり、

本柱頂部には照明器具、脇柱頂部にはカップ状の飾りを配する。

旧鹿児島県庁の正面を画していた。

平成20年（2008）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市山下町 ●交通／県民交流センター前（裁判所前）バス停 ●駐車場／有（県民交流センター駐車場）

鹿児島市庁舎本館 ▶かごしましちやうしゃほんかん

国登録／有形文化財／建造物

【MAP F-14】

建築当時、全国の市庁舎でも数少ない構造と規模であった



平成10年（1998）、国の有形文化財（建造物）に登録された。

建築様式は近世式で、中央の塔（3階）前面の垂直リブが垂直線を強調し、塔部の四角い垂直方向の連続窓がモダンな印象を与えている。

昭和12年（1937）に完成した。



●所在地／鹿児島市山下町 ●交通／市役所前バス停 ●駐車場／有

鹿児島市中央公民館 ▶かごしましちやうおうこうみんかん

国登録／有形文化財／建造物

【MAP F-14】

イスラム風尖塔アーチなど異国風の意匠が施されている



館は、地方の建築家に影響を与えた洋式建築の一つとして価値が高い。

平成17年（2005）、国の有形文化財（建造物）に登録された。

鹿児島市中央公民館は、もとの鹿児島市公会堂で、皇太子（昭和天皇）御成婚を記念して市が計画、昭和2年（1927）に竣工した。

建築家片岡安が建てた鹿児島市中央公民



●所在地／鹿児島市山下町 ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／有

旧県庁舎敷地西辺中央に位置する洋風石造門



旧県庁舎敷地西辺中央に位置する。鹿児島県立尋常中学校創設時の校門で、間口3.1m、本柱の高さ2.3m、脇柱の高さ2.2mの規模をもつ洋風石造門で、明治27年(1894)に建設された。

県立尋常中学校校門、県立図書館正門、県庁舎裏門、かごしま県民交流センター西門(現在)として使用され、旧県庁舎敷地の変遷を見続けてきた。

平成20年(2008)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地／鹿児島市山下町 ●交 通／県民交流センター前(裁判所前)バス停 ●駐車場／有(県民交流センター駐車場)

探勝園跡 ▶ たんしょうえんあと

斉彬、久光、忠義の銅像がある



二の丸庭園であった探勝園のあとには、島津家28代当主斉彬が本丸と電信の実験を行った電信使用の地の碑や探勝園の碑がたっている。探勝園は、25代当主重豪のときにつくられ、はじめは千秋園と呼ばれて

いた。27代当主斉興のときに手を加え探勝園と名づけられた。すばらしい庭園であったといわれる。

探勝園には、明治維新に大きく貢献した斉彬・久光・忠義の銅像がある。これらの銅像は、大分県竹田出身の朝倉文夫が造った。



●所在地／鹿児島市城山町 ●交 通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

幼年学校跡碑 ▶ ようねんがっこうあとひ

記念物／史跡

【MAP F-14】

西郷隆盛が、照国神社境内につくった士官養成の学校である。西郷や桐野利秋の明治維新の功績に対する賞典をもとに、篠原国幹が監督、漢学の久木田泰蔵、洋学の深見有常らの日本人教師のほか、スケッペル、コップスなどの外国人講師も教育にあたった。

また、この学校には、外国留学制度もあった。



●所在地／鹿児島市城山町(照国神社内) ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

加納久宜知事頌徳碑 ▶ かのうひさよしちじしょうとくひ

記念物／史跡

【MAP F-14】

加納久宜は筑後柳川藩主立花種善の弟の種道の三男として生まれた。

明治27年(1894)知事に任命され県民の生活向上のため教育と産業の発展に力を入れた。水稲の品種改良やみかんの改良をはじめ、茶業や畜産業、遠洋漁業などを奨励した。また全国的に比べて学校に通う人の割合が少なかった鹿児島の就学率を引き上げることにも努力し、家の貧しい人には、奨学金を出すなどした。また、学校の他に加納文庫をつくった。

久宜は在任中に私財を投げうって鹿児島の産業・教育の発展に尽くし、後に勲業知事と県民に慕われた。



●所在地／鹿児島市山下町(県民交流センター敷地内) ●交通／県民交流センター前(裁判所前)バス停 ●駐車場／有

石組排水溝 ▶ いしくみはいすいこう

記念物／史跡

【MAP F-14】

昭和59年(1984)9月、現在の名山小学校体育館敷地内の発掘調査によって発見され、その一部を復元保存したものが名山小学校の敷地内にある。水を流すための排水溝といわれている。

この地域では、この他、石をくりぬいて作った水道石管が見つかっており、当時の人々の石造物に対する技術の高さをうかがい知ることができる。

なお、敷地一帯は、江戸時代、鹿児島城二

之丸の正面にあたり、記録所・奉行所など、いろいろな役所や侍屋敷のあったところである。



●所在地／鹿児島市山下町(名山小学校敷地内) ●交通／市役所前バス停, 又は県民交流センター前(裁判所前)バス停 ●駐車場／無

武家の若者が学んだ藩校



造士館は安永2年(1773)、島津家25代当主重豪によって設立された最初の藩校である。江戸の昌平黉を模範にし、初代の館長は山本伝蔵正誼であった。修学期間は8歳から21、22歳までで、数百人の城下士の子弟が学んで

いたが、外城士の子弟や農工商人にも末席での聴講を許したという。当初は儒教中心だったが、28代当主斉彬の時代になると国学や洋学も教えた。

明治になって造士館は、第七高等学校造士館となり、その名が受け継がれていった。

また、造士館のとなり、今の中央公民館側には、演武館が建てられた。演武館では、剣、弓、槍、馬、銃などの稽古の他、犬追物も行われたといわれる。



●所在地／鹿児島市山下町(中央公園) ●交 通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

鹿児島県立中央高等学校本館及び講堂 ▶ かごしまけんりつちゅうおうこうとうがっこうほんかんおよびこうどう

建築直後の陸軍特別大演習の際、大本営が設置された



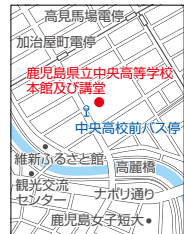
鹿児島県立鹿児島中央高等学校は、旧制鹿児島県立第一高等女学校として、県の技師岩下松雄により設計され昭和10年(1935)9月に竣工した。

新築直後に陸軍特別大演習が実施された際には、昭和天皇行幸、本館に大本営が設置

された。昭和20年(1945)8月1階北側を全焼、昭和39年(1964)3月まで県立鶴丸高校の校舎として使用、同年3月から県立鹿児島中央高校の校舎として使用され現在に至っている。

敷地西側に建ち、コンクリート造3階1部4階建てで、平面は口の字形、南北55m、東西77m、幅11mの規模である。南東に講堂を置き、北西隅を曲面でつくり正面玄関とし、上部アーチ状の縦型窓を開き、円形平面の4階部分をつくるなど、コンクリート造の特徴をいかした建物である。

平成19年(2007)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交 通／中央高校前バス停 ●駐車場／無

維新の三傑，西郷隆盛はここ甲突川河畔で生まれ育った

大久保・木戸とともに維新の三傑といわれた。

文政10年(1827)、小姓与の吉兵衛の長男として生まれ、郷中教育の中で文武に励み、禅学も修めた。17歳で郡方書役助となり、やがて島津家28代当主斉彬に登用され、將軍継嗣及び条約勅許問題に奔走した。しかし、安政の大獄に斉彬の急死も重なって帰藩した。その後、僧月照との投身事件を起こしたものの、一命はとりとめた。

その後、2度の島流しを体験し、元治元年(1864)召還後、藩政の中核として活躍

し、維新の原動力となった。

維新後、新政府の参与、参議、陸軍大将などとなり、廃藩置県、兵制、地租改正等を断行したが、明治6年(1873)いわゆる征韓論に破れて帰郷し、私学校を設立した。

明治10年(1877)私学校生徒の決起により、西南戦争が起こり、圧倒的な政府軍の前に、城山の露と消えた。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交 通／維新ふるさと館(観光交流センター)前バス停 ●駐車場／無

維新後の重要な政策を断行し、日本の近代化を推進した

天保元年(1830)高麗町で生まれ、間もなく加治屋町に移り住み、西郷らと郷中教育を受けた。15歳で記録所書役助をつとめ、お由羅騒動で一時、免職になったが、島津家28代当主斉彬の代になり徒目付まで進んだ。

斉彬の死後、久光・忠義父子の信任を得て、藩の中核として西郷らと討幕に活躍し、明治維新を実現させた。維新後は新政府の中心的人物として版籍奉還、廃藩置県、その他革新政治のすべてに関与した。

明治4年(1871)岩倉具視の副使として欧米を視察した。明治6年(1873)帰国後、

年来の同志であった西郷と、いわゆる征韓論で対立し、征韓論に反対した。以来、参議兼内務卿として殖産興業政策や地方自治制度の改革に取り組み、日本の近代化に大きな功績を残した。明治11年(1878)5月14日、紀尾井坂で石川県士族島田一郎に暗殺され、47歳の生涯を閉じた。なお加治屋町には、大久保利通生い立ちの地に石碑がある。



大久保利通銅像

大久保利通生い立ちの地



●所在地／鹿児島市高麗町 ●交 通／高麗橋バス停 ●駐車場／無

平田靱負屋敷跡 ▶ひらたゆきえやしきあと

県指定／記念物／史跡

【MAP E-13】

木曽川治水工事の総奉行としての責任をとり自刃した

平田靱負は江戸時代中期の家老で宝永元年(1704)に生まれた。

宝暦年間(1751～1764)、木曽川治水工事の総奉行として大工事を完成させたが、多くの犠牲者と経費の予算超過の責任をとって自刃したといわれている。

天保年間(1830～1844)の城下絵図によると、平田家屋敷の門は柿本寺馬場に面し、山手側には道路をへだてて柿本寺、その隣が天保の改革を推進した調所広郷邸となっている。

現在、屋敷跡は平田公園となり、昭和29年(1954)5月、宝暦治水200年を記念して

安藤士の製作になる平田靱負の銅像が建てられた。

昭和29年(1954)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市平之町(平田公園) ●交通／新上橋バス停 ●駐車場／無

鹿児島旧港施設 新波止 一丁台場 遮断防波堤

▶かごしまきゅうこうしせつ しんはと いっちょうだいば しゃだんぼうはてい

国指定／有形文化財／建造物

【MAP F-15】

旧態が保持されており港湾史上高い価値を有する

鹿児島旧港施設は、鹿児島市中心地の鹿児島港本港区に位置する港湾施設である。

新波止と一丁台場は海岸埋立地の波除けとして、それぞれ弘化年間頃(1844～1848)及び明治5年(1872)頃に築かれ、遮断防波堤は、鹿児島県による修築事業によって明治37年(1904)に竣工した。

鹿児島旧港施設は、南九州における交通と海防の拠点として、近世から近代にかけて整えられた、鹿児島港の代表的遺構である。また、築造が江戸末期にさかのぼり、沖防波堤である新波止、技術の時代的特色をよく示す一丁台場及び遮断防波堤が、旧

態を保持しながらまとめて残っており、港湾技術史上、高い価値がある。

平成19年(2007)、国の重要文化財(建造物)に指定された。



●所在地／鹿児島市本港新町 ●交通／ドルフィンポートバス停 ●駐車場／無

鹿児島旧港北防波堤灯台 ▶かごしまきゅうこうきたぼうはいとうだい

国登録／有形文化財／建造物

【MAP E-15】

鹿児島港修築工事の代表的遺構のひとつ

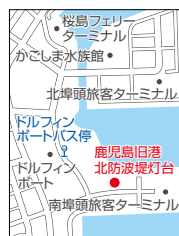


鹿児島旧港北防波堤灯台は、鹿児島市中心部の鹿児島本港区に位置する。鉄筋コンクリート造りで、四角形平面とする旧ガス発生室の上に、六角形平面の鉄骨造灯台を建て、頂部には円形の踊場および換気口付の

灯器を付けている。総高は11mで、昭和9年（1934）に建立された。

現在は灯台として機能していないが、旧内務省が実施した鹿児島港修築工事の代表的遺構の1つである。

平成20年（2008）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市本港新町 ●交通／ドルフィンポートバス停 ●駐車場／無

鹿児島銀行本店別館 ▶かごしまぎんこうほんてんべっかん

国登録／有形文化財／建造物

【MAP F-14】

工匠の技の確かさが表れる大正期のルネッサンス風建築物



鹿児島銀行本店別館は、大正7年（1918）竣工した、ルネッサンス風建築物である。

玄関の1階から2階に貫通するイオニア式オーダーは重厚感を醸す。営業室の床は英国製モザイクタイル張り、柱、階段手

摺は大理石張り、天井の高さも非常に高く、外壁は花崗岩張りである。2階の貴賓室は寄木張りで天井は線形彫刻がみられるなど、当時の工匠の技の確かさが表れている。

平成19年（2007）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市金生町 ●交通／金生町バス停 ●駐車場／無

巨大な列柱（コリシャン・オーダー）が目を引く



南日本銀行本店（旧旭相互銀行本店）は、朝日通りと電車通りと面する場所に位置している昭和初期の建物である。県の技師三上昇の設計により、昭和12年（1937）に竣工した。建物の様式は、ルネッサンス様式と分離派様式との混合様式であり、近代か

ら現代への過渡期の作品である。礎盤・柱身・柱頭を有する部分と、この柱が支える軒部分を含んだオーダーと呼ばれる列柱部分はコリント式であり、3階まで突き通っている巨大な列柱（コリシャン・オーダー）は豪壮な様相を呈し、建築学上貴重な存在である。なお、上層3層部では、分離派様式が用いられている。

平成10年（1998）、国の有形文化財（建造物）に登録された。



●所在地／鹿児島市山下町 ●交通／金生町バス停, 又は市役所前バス停 ●駐車場／無

月照の墓と不動明王像 ▶げつしょうのはかとふどうみょうおうぞう

不動明王は本県の数少ない仏教美術品のひとつ



南洲寺一帯は、江戸時代に栄えた松原山南林寺跡である。廃仏毀釈により廃寺となった後は、南林寺墓地となっていたが、大正8年（1919）、墓地も廃止になり、市街地となった。

南洲寺の隣には、今も勤王の志士や学問・武芸などの達人の墓が由緒墓として残っている。幕末の勤王僧で、西郷とともに鹿児島湾に身を投げて亡くなった京都清水寺成就院の住持月照の墓も南洲寺の境内にある。

また、南洲寺の御堂には、鎌倉時代につくられたといわれる不動明王像が置かれている。木彫りで、彩色されていたと思われる跡もあり、像の高さは約96cmの立像で、昭和30年（1955）、鹿児島県の有形文化財（彫刻）に指定された。



●所在地／鹿児島市南林寺(南洲寺内) ●交通／松原小前バス停 ●駐車場／有

五代友厚銅像 ▶ごだいともあつどうぞう

記念物／史跡

【MAP F-14】

昭和36年(1961)、大阪の篤志家^{とくし か}の寄贈によるもので、最初は長田陸橋の一角に建てられていたが、昭和56年(1981)、泉公園内に移設された。制作者は、彫刻家の坂上政克である。



●所在地／鹿児島市泉町(泉公園内) ●交 通／金生町バス停 ●駐車場／無

天文館 ▶てんもんかん

記念物／史跡

【MAP E-14】



天文館のアーケードを城山に向かって歩くと、アーケードが終わる交差点の右手前に、天文館跡の記念碑がある。

島津家25代当主重豪^{しげひで}が、天文観測や研究のため、安永8年(1779)に明時館をたてた。館には4m四方の観測台を築いた。明時館は天文館ともいわれ、

現在の天文館通りの名もここからきている。藩内の暦はすべてこの明時館から配布され、薩摩暦とか鹿児島暦といわれた。

このあたりは、当時、石垣をめぐらした武家屋敷があり、迎賓館にあたる御春屋、花岡屋敷、日置屋敷などがあった。



●所在地／鹿児島市東千石町 ●交 通／天文館バス停, 又は天文館通電停 ●駐車場／無

僧俊寛の碑 ▶そうしゅんかんのひ

記念物／史跡

【MAP F-14】

安永3年(1177)、俊寛は藤原成経^{なりつね}、平康頼^{やすより}らと鹿ヶ谷^{しかがたに}で後白河法皇^{ごしろくわほうおう}を擁^{よう}して、平氏を打ち倒すために密談したが、多田行綱^{ゆきつな}の密告により全員捕らえられ、3人は薩摩の鬼界ヶ島(現在の硫黄島)へ流されたと言われる。この時に船出したところがこの場所であったという。

3年後、2人は帰ることを許されたが、俊寛だけは許しが出なかったため、そのま

ま島に残り亡くなったと伝えられている。
※流刑地については諸説あり。



●所在地／鹿児島市中町 ●交 通／西郷銅像前バス停, 又はいづろバス停 ●駐車場／無

明快な色調と温和な筆法で多くの名作を残す



慶応2年(1866)高見馬場に生まれ、明治4年(1871)伯父黒田清綱の養子となり上京した。明治17年(1884)、19歳で法律を学ぶためフランスに留学したが、明治20年(1887)西洋画研究に転向し、外光派ラファエル・コランに師事した。明治26年(1893)帰国したが、滞仏中に制作した「読書」「朝妝」等の外光派

風の明るい画風は、日本の画壇に大きな影響を与えた。帰国後は白馬会を結成し、明治29年(1896)東京美術学校に創設された洋画科の教授となり、後進の指導にあたりとともに西洋画教育の基礎を確立した。帝室技芸員、帝国美術院長、貴族院議員を歴任。画風は外光派的写実主義で、明快な色調と温和な筆法で、「湖畔」「昔語り」など多くの名作を残している。明治・大正の洋画壇の巨匠といわれた。

市立美術館には黒田記念室が設けられ、「アリエ」「桜島噴火」が市の文化財(絵画)に指定されている。



●所在地／鹿児島市東千石町 ●交通／高見馬場バス停 ●駐車場／無

東郷重位拝領屋敷跡 ▶とうごうちゅういはいりょうやしきあと

薩摩藩独特の剣法・示現流の祖

天文館と高見馬場の中間の二官橋通りを城山に向かって歩いていくと、東郷示現流の祖と言われる東郷重位拝領屋敷跡がある。

示現流は、東郷重位が京都で修業のあと、薩摩に伝えたものである。そして慶長9年(1604)に、島津家18代当主家久の面前で、新しい剣法を披露し、その業は見ていた人々を驚かせた。そのとき、家久は、東郷重位に薩摩の剣法の指南役をまかせ、家禄1000石を与えた。その後、示現流は薩摩藩独特の兵法として、武士の養成に重要な役割を果たすことになった。

また、重位のすぐれた弟子であった薬丸兼陳は、重位に教わっているうちに、新たに薬丸

自顕流を起し、幕末に数多くの剣士を育てている。

現在、東郷家に伝わっている示現流の古文書は、県の文化財(書跡)に指定され、示現流兵法所には各種の資料が展示してある。



●所在地／鹿児島市東千石町 ●交通／高見馬場バス停 ●駐車場／無

日本で最初のキリスト教伝来地



スペイン生まれのイエズス会宣教師フランシスコ・ザビエルは、天文18年(1549)8月、マラッカから案内人のヤジロウを伴って、ヤジロウの郷里鹿児島島の稲荷川付近に上陸した。そして伊集院の一字治城で島津家15代当主貴久と会見し、キリスト教布教の許可を得た。日本最

初のキリスト教伝来である。その後、ザビエルは平戸へ去り、山口、京都、大分と各地を布教し、同時にヨーロッパの文化を伝えた。

明治44年(1911)現在地にザビエル渡来を記念して県下初の本格的石造教会(ザビエル教会)が建設されたが、昭和20年(1945)戦災で焼失した。昭和24年(1949)ザビエル上陸400年を記念して焼け残った旧教会の石壁を利用して記念碑が建てられた。また、祇園之洲公園にはザビエルの上陸記念碑が建てられている。



●所在地／鹿児島市東千石町(ザビエル公園内) ●交通／ザビエル公園前バス停 ●駐車場／無

調所笑左衛門広郷邸跡 ▶ずしよしょうざえもんひろさとていあと

藩の財政を立て直すも自害して果てた

薩摩藩の財政改革を成功させた調所広郷邸跡で、道路をへだてて平田靱負屋敷跡がある。

文化・文政年間(1804～1818・1818～1830)の藩の財政は危機の状態にあって、島津家27代当主斉興は財政立直しの最後の切札に文政10年(1827)側用人調所広郷を起用した。当時、藩の借金は500万両にも達していたが、調所は苦勞の末に大坂商人の出雲屋、平之屋らの協力を得て改革資金を調達し、250年償還という強引な条件で借金の整理を行った。これと並行して藩の特産物を奨励し、特に奄美大島、徳之島、喜界島の3島での砂糖の専売や琉球との密貿易によって莫大な利益を上げた。このような徹底した調所の改革によって、天保11年(1840)藩の財政は立直り、200万両

をもって鹿児島城の修理や五大石橋の架設をはじめ土木事業を積極的に進め、50万両の貯蓄もできた。しかし、嘉永元年(1848)幕府から密貿易の嫌疑をかけられ、江戸の藩邸で自害したとされている。



●所在地／鹿児島市平之町 ●交通／新上橋バス停 ●駐車場／無

内務大臣兼鉄道院総裁となり、鉄道の発展に尽くす



竹二郎は、慶応2年(1866)12月、城山トンネルで近くの新照院に生まれ、名前は竹熊といった。父は西郷隆盛の肖像画で有名な正精である。

4歳の時、父が上京して司法省に入ったので、竹熊は母と一緒に生活しながら、高津忠良のいろは歌など教わって成長した。しかし、西南戦争で家を焼かれ、翌年上京した。

明治20年(1887)、帝国大学政治学科に入り、卒業後は大蔵省試補、宮城県参事官、東京府書記官、徳島県知事などを歴任した。そして山本内閣の鉄道院総裁を最後に役人をやめ、鹿児島県から衆議院議員に立候補し、当選して政友会に入った。

大正7年(1918)、原敬がはじめて政党内閣をつくと、内務大臣兼鉄道院総裁となり、選挙法を改正し、鉄道の発展に努めた。

その後も、大臣や政党の総裁として、日本の政治を大きく動かした。鹿児島中央駅東口の広場には、胸像が建てられている。



●所在地／鹿児島市新照院町 ●交通／新照院バス停 ●駐車場／無

新納忠之介誕生地 ▶にうちゅうのすけたんじょうち

奈良や京都の文化財を空襲から救う



太平洋戦争の終わった翌年、昭和21年(1946)5月、奈良法隆寺の門前で、かたく手を取り合って古都の無事を喜び合う日本人とアメリカ人がいた。彫刻家の新納忠之介と、その弟子のウォーナー博士であった。ウォーナー博士は、日本の文化財目録と地図を作り、ルーズベルト大統領に「大事な文化財を、爆撃から

守ってほしい。」と訴え続けたのである。

新納は、明治元年(1868)、新上橋の近くで生まれた。少年の頃から彫刻が好きで東京美術学校彫刻科を卒業して母校の助教授になった。そして、平泉の中尊寺、奈良の東大寺や興福寺などの仏像の修理にあたった。この間に、アメリカの青年、ウォーナーは新納のもとで日本の仏像彫刻を研究した。2人のあたたかい師弟愛によって、爆撃から奈良や京都の文化財は守られたのである。

新納は仏像の修理に一生を捧げ、その数は2000体を越えた。



●所在地／鹿児島市新照院町 ●新照院バス停 ●駐車場／無

上村彦之丞誕生地 ▶かみむらひこのじょうたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

嘉永2年(1849)、鹿児島城下平之町に生まれた。戊辰戦争、さらに日清戦争・日露戦争にも従軍した。

日露戦争では中将として第2艦隊を率い、蔚山沖海戦でロシアの艦隊を破った時、海中に漂う敵の将兵627人を救助し、武士道の鑑として広く世界に伝えられた。その後、海軍大将さらに軍事参議官にもなった。



●所在地／鹿児島市平之町 ●交通／中之平バス停 ●駐車場／無

木村探元誕生地 ▶きむらたんげんたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-13】

延宝7年(1679)、城下千石馬場の甲突川のほとりに生まれた。

小さい頃から絵が上手で、25歳の時江戸に出て、狩野探信の下で絵の勉強に励んだ。そして鹿児島城本丸や近衛家などの障壁画をかき、「見事探元」という言葉さえ生まれた。

墓は小野町幸加木にある。



●所在地／鹿児島市平之町 ●交通／中之平バス停 ●駐車場／無

西郷従道誕生地 ▶さいごうつぐみちたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

西郷隆盛の弟として、天保14年(1843)に加治屋町に生まれた。

戊辰戦争に参加し、維新後は陸軍をつくることに力を尽くした。のち海軍に移り、わが国最初の元帥・海軍大将、初代海軍大臣となった。

西南戦争では政府軍に加わった。



●所在地／鹿児島市加治屋町(西郷隆盛誕生地内) ●交通／維新ふるさと館(観光交流センター)前バス停 ●駐車場／無

伊地知正治誕生地の碑 ▶ いじちまさはるたんじょうちのひ

記念物／史跡

【MAP E-13】

文政11年(1828)、上之園町に生まれる。
藩校造士館せうし かんの教官となり、薩英戦争、鳥羽・伏見の戦いで活躍し、戊辰戦争では会津藩の若松城を攻め落とした。

維新後は新政府の参議兼議長、修史官総裁などを務めた。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／維新ふるさと館(観光交流センター)前バス停 ●駐車場／無

黒木為禎誕生地 ▶ くるきためもとたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-13】

弘化元年(1844)加治屋町に生まれた。
西南戦争では政府軍に参加した。

日清戦争では第6師団長、日露戦争では陸軍大将、第1司令官、のち枢密顧問官になった。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／中央高校前バス停 ●駐車場／無

大山巖誕生地 ▶ おおやまいわおたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

天保13年(1842)、西郷のいとして加治屋町に生まれた。

寺田屋事件、薩英戦争、戊辰戦争に参加した後、フランスで近代兵学を学んだ。西南戦争では政府軍として、城山攻撃に加わった。伊藤内閣などの陸軍大臣を務め、日清戦争の司令官、日露戦争の満州軍総司令官として活躍した。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／中央高校前バス停 ●駐車場／無

村田新八誕生地の碑 ▶むらたしんぱちたんじょうちのひ

記念物／史跡

【MAP E-14】

天保7年(1836)、^{やくし}葉師町に生まれ、のち^{かじや}加治屋町の^{ようし}村田家の養子となった。

西郷のもとで幕末活躍し、維新後、宮内大丞となったが朝鮮問題で大久保と対立した西郷が鹿児島に帰ると、後を追った。

西南戦争では2番隊長として戦い、岩崎谷^{ほうだん}で砲弾にたおれた。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／中央高校前バス停 ●駐車場／無

井上良馨誕生地 ▶いのうえよしかたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

弘化2年(1845)、甲突川べりの^{こうらい}高麗町に生まれ、後に加治屋町に移り住んだ。

日本海軍の^{かんちよう}艦長として初めてヨーロッパへ航海し、また海軍大学校長^{ちんじふ}、鎮守府司令長官を務めた。(加治屋町にも誕生地の碑がある。)



●所在地／鹿児島市高麗町 ●交通／高麗橋バス停 ●駐車場／無

篠原国幹誕生地の碑 ▶しのはらくにもとたんじょうちのひ

記念物／史跡

【MAP E-14】

天保7年(1836)、^{ひらの}平之町に生まれた。戊辰戦争に参加し、その後陸軍にはいり、陸軍少将となった。

征韓論で大久保と対立した西郷に従って鹿児島に帰り私学校創設に参加した。西南戦争では1番隊長として戦い、田原坂の激戦で戦死した。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／中央高校前バス停 ●駐車場／無

東郷平八郎誕生地 ▶とうごうへいはちろうたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

弘化4年(1847)、加治屋町に生まれた。薩英戦争時は17歳であったが、父、兄とともに参戦した。

明治36年(1903)に連合艦隊司令長官となり、明治38年(1905)の日本海海戦では、丁字戦法を使って、当時世界最強といわれたロシアのパルチック艦隊を破り、世界の人々を驚かせた。

多賀山公園に墓があり銅像もたっている。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／中央高校前バス停 ●駐車場／無

山本権兵衛誕生地 ▶やまもとごんのひょうえたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

嘉永5年(1852)、加治屋町に生まれ、16歳のとき鳥羽・伏見の戦いに参加した。

その後、海軍大臣を務め、大正2年(1913)と同12年(1923)には首相となったが、それぞれシーメンス事件、虎の門事件のため辞職した。



●所在地／鹿児島市加治屋町(田平病院) ●交通／甲東中学校前バス停 ●駐車場／無

山本英輔誕生地 ▶やまもとえいすけたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

明治9年(1876)、加治屋町に生まれた。山本権兵衛の甥にあたる。

早くから飛行機の将来性に着目して研究を行った。初代航空部長、連合艦隊司令長官、海軍大将などを務めた。



●所在地／鹿児島市加治屋町(田平病院) ●交通／甲東中学校前バス停 ●駐車場／無

田代安定誕生地 ▶たしろやすさだたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

安政4年(1857)、加治屋町に生まれた。内務省や農商務省などに勤めたが、南西諸島の動植物、民俗調査も行い、日本の熱帯植物研究の第一人者といわれている。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／甲東中学校前バス停 ●駐車場／無

安藤照誕生地の碑 ▶あんどうてるたんじょうちのひ

記念物／史跡

【MAP E-14】

明治25年(1892)に樋之口町に生まれた。東京美術学校彫刻科を卒業し、帝展に連続して特選となり、第1回帝国美術院賞も受けた。昭和2年(1927)に帝展審査委員となり、昭和4年(1929)に塊人社を結成した。

美術館横の「西郷隆盛像」は代表作で、彫刻を量のかたまりとして表現する彫刻家といわれている。



●所在地／鹿児島市加治屋町 ●交通／甲東中学校前バス停 ●駐車場／無

橋口五葉誕生地 ▶はしぐちごようたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

明治13年(1880)城下樋之口の藩医、橋口兼満の三男として生まれる。本名を清といい、家の近くにあった五葉松にちなみ五葉と号した。最初、鹿児島で日本画を学び、19歳で上京してからは黒田清輝のすすめで白馬会に入って洋画を学んだ。明治34年(1901)、東京美術学校西洋画本科に入学した。

彼の名を一躍有名にしたのは、明治44年(1911)の東京三越が募集した1000円懸賞ポスターでの第一席となった美人画である。また、漱石の吾輩は猫であるの装丁を手掛けてからは、鷗外、鏡花、荷風らの作品を飾った。

大正7年(1918)出版の「化粧の女」から名作「髪すける女」に至るまでの数年間が五葉芸術の絶頂期といわれ、浮世絵の伝統を生かしながらの綿密な描写は、五葉の特色である。



●所在地／鹿児島市樋之口町(甲東中裏門) ●交通／甲東中学校前バス停 ●駐車場／無

船魂神社 ▶ふなだまじんじや

有形文化財／建造物

【MAP E-14】

島津家19代当主光久は、春日神社のと
なりに船出と航海安全のため船魂神社を建て
た。しかし、稲荷川の川底が浅くなったた
めこの地に移され、ここが武村の飛地のた
め「武村船手」と呼ばれた。

その後、ここも不便になり、船手は対岸
の天保山に移され、天保山中学校の近くに
御船手跡の碑が建っている。



●所在地／鹿児島市新屋敷町 ●交 通／武之橋電停 ●駐車場／無

乃木静子誕生地 ▶のぎしずこたんじょうち

記念物／史跡

【MAP D-14】

静子は湯地家出身で、新屋敷町に生まれ
た。20歳で乃木希典と結婚し、賢夫人とし
て讃えられた。明治天皇の後を追って、乃
木希典とともに静子も殉死した。

静子の3番目の兄にあたる湯地定監は、
海軍中将、のち貴族院議員となり、武之橋
左岸公園に顕徳碑がある。



●所在地／鹿児島市新屋敷町 ●交 通／武之橋電停 ●駐車場／無

黒田清隆誕生地 ▶くろだきよたかたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

天保11年(1840)、新屋敷で生まれた。
西郷や大久保とともに幕末から明治のはじ
めにかけて活躍し、西南戦争では西郷と敵
対した。明治2年(1869)の五稜郭の戦い
には、敵将榎本武揚ら全員を無罪にし、武
人の鑑といわれた。

その後、北海道開拓使長官として北海道
の発展につくし、明治21年(1888)、第2
代内閣総理大臣となった。



●所在地／鹿児島市樋之口町 ●交 通／甲東中学校前バス停 ●駐車場／無

西本願寺別院 ▶にしほんがんにべついん

有形文化財／建造物

【MAP F-14】



薩摩藩では、江戸時代を通して一向宗（浄土真宗）の信仰はキリスト教とともに禁止されていたが、かくれ念仏としてひそか

に信仰が続けられていた。

明治9年（1876）に信仰が許されると、真宗本願寺派は布教活動を始め、説教所も開いた。明治30年（1897）、別院が建てられたが、昭和20年（1945）の空襲で焼けてしまい、昭和24年（1949）再建、さらに昭和57年（1982）には九州一の大伽藍が完成した。



●所在地／鹿児島市東千石町 ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

県里程元標 ▶けんりていげんびょう

記念物／史跡

【MAP F-14】

明治20年代（1887～1896）に第1期、2期道路開鑿計画に着手し、道路網が整備された。明治35年（1902）に建てられたもので、ここを起点にして県内各地へ至る距離が記されている。



●所在地／鹿児島市東千石町 ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

月照上人遺跡之碑 ▶げつしょうしょうにんいせきのひ

記念物／史跡

【MAP F-14】

月照は幕末の勤王僧で、京都清水寺成就院の住職であった。月照が安政5年（1858）、幕府の追及を逃れ、西郷を頼って薩摩にやって来た時に泊った旅館俵屋のあったところである。



●所在地／鹿児島市金生町 ●交通／金生町バス停 ●駐車場／無

石燈籠 ▶いしどうろう

記念物／史跡

【MAP E-14】

いづろ通りの一角北側に建っている石燈籠は、南林寺（現在の松原神社）の参道に建っていたものといわれているが、航路標識であったという説もある。いづろの名はこの石燈籠に由来するといわれる。



●所在地／鹿児島市金生町 ●交通／いづろバス停・電停 ●駐車場／無

道路開鑿記念碑 ▶どうろかいさくきねんひ

記念物／史跡

【MAP F-14】

明治20年（1887）、渡辺知事の時、鹿児島と川内間の道路建設工事が始められてから、5年の年月と50余万円の経費をかけて、県内6つの幹線道路が開通した。そのため県内の交通は大変便利になり、これを記念して碑が建てられた。



●所在地／鹿児島市山下町(中央公園近く) ●交通／西郷銅像前バス停 ●駐車場／無

松原神社 ▶まつばらじんじや

有形文化財／建造物

【MAP E-14】

この神社は、廃仏毀釈により廃寺となった松原山南林寺の敷地内に建てられたものである。福昌寺末寺の南林寺は、島津家15代当主貴久が弘治2年（1556）創建したもので、貴久の菩提寺であったため、後に神社として再建されたものである。祭神は貴

久で、寺院の山号が社名となり、寺名は町名の南林寺として残っている。



●所在地／鹿児島市松原町 ●交通／松原小前バス停 ●駐車場／有(有料)

塩釜神社 ▶しおがまじんじや

有形文化財／建造物

【MAP E-14】

塩釜明神ともよばれ、この地区の海岸はすべて塩田であったため、塩づくりを業とする人が多く、村人の信仰も厚かったといわれる。



●所在地／鹿児島市新屋敷町 ●交通／松原小前バス停 ●駐車場／無

大門口砲台跡 ▶だいもんぐちほうだいあと

記念物／史跡

【MAP E-15】

島津家28代当主斉彬は海岸の防備のために砲台を築いたが、大門口砲台は、嘉永7年(1854)に完成した。そして文久3年(1863)の薩英戦争時は、36ポンド爆砲3門、野戦砲4門などが備えられていた。



●所在地／鹿児島市南林寺町 ●交通／大門口バス停 ●駐車場／無

樺山資紀邸跡 ▶かばやますけのりていあと

記念物／史跡

【MAP E-13】

天保8年(1837)西田町に橋口与三次の三男として生まれ、後に樺山家の養子になった。

その後、警視總監、陸・海軍大臣、台湾初代総督などを務めた。



●所在地／鹿児島市中央町 ●交通／高見橋電停 ●駐車場／無

西郷南洲翁宅地跡 ▶さいごうなんしゅうおうたくちあと

記念物／史跡

【MAP E-13】

共研公園の一角付近は西郷一家が安政2年(1855)12月、加治屋町の屋敷を売却して移り住み、明治2年(1869)7月武屋敷に移るまで十数年過ごしたところである。



●所在地／鹿児島市中央町(共研公園内) ●交通／共研公園前バス停 ●駐車場／無

中原猶介宅跡 ▶なかはらゆうすけたくちあと

記念物／史跡

【MAP D-13】

中原猶介は天保3年(1832)上之園町に生まれた。長崎や江戸で蘭学や砲術を学び、島津家28代当主斉彬に用いられ、集成館事業・軍備の充実につくした。戊辰戦争で越後長岡で亡くなった



●所在地／鹿児島市上之園町(甲南高校内) ●交通／甲南高校前バス停 ●駐車場／無

三方限出身名士顕彰碑 ▶さんぼうぎりしゅっしんめいしけんしょうひ

記念物／史跡

【MAP D-14】

現在の上之園町，高麗町，上荒田町（三方限）出身で幕末から明治維新の頃活躍した48人の偉人を讃えて，昭和10年（1935）に建てられた。



●所在地／鹿児島市高麗町(甲南中学校内) ●交通／甲南高校前バス停 ●駐車場／無

坂本龍馬新婚の旅碑 ▶さかもとりょうましんこんのりよひ

記念物／史跡

【MAP D-15】

慶応2年（1866）坂本龍馬とお龍は，海路鹿児島を訪れ，霧島で遊び小松邸に滞在した。これが日本の新婚旅行のはじまりといわれる。



●所在地／鹿児島市天保山町 ●交通／共月亭前バス停 ●駐車場／無

海軍航空隊鹿児島基地跡 ▶かいぐんこうくうたいかごしまきちあと

記念物／史跡

【MAP B-14】

鴨池飛行場は，昭和13年（1938）に海を埋め立ててつくられた海軍の重要な基地であった。戦後は民間空港として昭和47年（1972）まで使用されたが現在は，高層建築の並ぶ住宅街になっている。



●所在地／鹿児島市真砂本町(鴨池小学校敷地内) ●交通／郡元バス停 ●駐車場／無

元文の板碑 ▶げんぶんのいたび

記念物／史跡

【MAP B-13】

この碑は「お医師様」と呼ばれ，元文2年（1737），島津家22代当主継豊のとき，無実の罪で処刑された島津家出入りの医師を供養するために建てられた。



●所在地／鹿児島市南郡元町 ●交通／JR南鹿児島駅 ●駐車場／無

牛掛灘の古戦場 ▶ うしかけなだのこせんじょう

記念物／史跡

【MAP B-13】

牛掛公園のあたりは、南北朝時代(1336～1392)に島津家5代当主貞久と谷山郡司谷山隆信の子忠高らとの激しい戦いがあったところである。



●所在地／鹿児島市南郡元町(牛掛公園) ●交通／JR南鹿兒島駅 ●駐車場／無

斉之平の田の神 ▶ さいのひらのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP A-12】

高さ97cmの立像で、田の神舞神職型の田の神である。「享保十年」(1725)と刻まれている。

この田の神舞神職型のものの変化に富み、数多く造られている。



●所在地／鹿児島市宇宿4丁目 ●交通／宇宿四丁目バス停 ●駐車場／無

弥生式住居跡 ▶ やよいしきじゅうきょあと

県指定／記念物／史跡

【MAP C-13】

県内で最初に発見された弥生時代の住居跡



一之宮神社の境内の奥には、昭和25年(1950)に県内で最初に発見された弥生時代の住居跡がある。

今から約2000年前の人々が住んでいた竪穴住居の跡で、柱の穴や炉の跡、多くの土器や石器が発掘された。住居は内径が

6m、外径が8mで発見された時は中心に舟型のくぼみ(炉あと)もはっきりしていた。

鹿児島大学や附属中の構内からも住居跡が発見されており、このあたりは、海岸に近く漁撈に便利なこと、紫原台地で狩猟ができたこと、平地で稲作ができたことなど、人々が生活するのに適した場所だったようである。

昭和28年(1953)、鹿児島県の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市郡元2丁目(一之宮神社敷地内) ●交通／中郡電停 ●駐車場／有(一之宮神社内)

県内でも貴重な名号板碑



平安時代の頃は、郡元地区が鹿児島の政治の中心地で、一之宮神社も広い荘園を持ち、大きな力をもっていた。江戸時代の初め頃までは、島津家の代々の当主も正月には参詣したといわれる。

境内には、高さ97cm、幅25cm、厚さ15cmの大永名号板碑が建っている。刻まれている文字から大永5年(1525)に、道仲が建てた塔婆と思われる。またこの板碑は現在神社の境内に立っているが、一之宮神社に隣接して建っていた延命院のものと考えられる。

名号板碑は県内では大変珍しく、昭和34年(1959年)、鹿児島県の有形文化財(考古資料)に指定された。



●所在地 / 鹿児島市郡元2丁目(一之宮神社敷地内) ●交通 / 中郡電停 ●駐車場 / 有(一之宮神社内)

鹿児島大学総合研究博物館常設展示室 ▶ かごしまだいがくそうごうけんきゅうはくぶつかんじょうせつてんじしつ

鹿児島における初期の鉄筋コンクリート建築物



鹿児島大学総合研究博物館常設展示室の建物は、昭和3年(1928)鹿児島高等農林学校の図書館書庫として建てられた。

鹿児島高等農林学校は、明治42年(1909)開校、明治44年(1911)に石造の書庫が建てられたが、内部の棚が白蟻の被害に遭い、昭和3年(1928)に鉄筋コンクリート

に建て替えられた。

昭和20年(1945)鹿児島空襲において、鹿児島高等農林施設の約半分はすっかり焼けてしまったが、燃失を逃れ、その後高等農林時代の木造建築が次々と姿を消す中で、唯一残った施設がこの旧図書館書庫である。

鹿児島における初期の鉄筋コンクリートであり、最も古い学校施設として、歴史的に重要な役割を担っている。

平成18年(2006)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地 / 鹿児島市郡元1丁目(鹿児島大学敷地内) ●交通 / 鹿大正門前バス停 ●駐車場 / 有(大学敷地内)

九州の旧制中学校で最初の鉄筋コンクリート建築物



鹿児島県立甲南高等学校は、明治17年(1884)県立中学造士館として設立されて始まる。

本館は、昭和5年(1930)に九州の旧制中学校では初の鉄筋校舎として竣工した。敷地北側及び東側に寄って建つ。鉄筋コンクリート3階建て、平面はL字型で、幅10m、北側長さ112m、東側長さ82mの規

模である。北東隅の曲面部に正面玄関を置き、上部はドーム状の塔屋となっている。校長室に奉安殿が残る。

設計者は鹿児島県技師であった三上昇である。

昭和20年(1945)10月進駐米軍の兵舎となり、昭和24年(1949)第二鹿児島中学校と鹿児島第二高等女学校と統合、新制県立甲南高等学校として発足し、現在に至っている。

現在でもコンクリートは健全で、初期のコンクリート造の学校建築として貴重である。

平成19年(2007)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地／鹿児島市上之園町 ●交 通／甲南高校前バス停 ●駐車場／無

天保山砲台跡 ▶てんぼざんほうだいあと

薩英戦争において火ぶたを切った砲台



天保山は、甲突川の川底をさらえた砂によってできたところである。

薩摩藩では、島津家27代当主斉興の頃から次の28代当主斉彬の時代にかけて、祇園之洲、弁天波止場、新波止、大門口、島

島、袴腰、沖小島と次々に砲台を築き、外国から国を守る準備をした。

この天保山には、嘉永3年(1850)砲台が設けられ、11門の大砲が置かれた。文久3年(1863)の薩英戦争では、7月2日正午、この砲台が火ぶたを切った。今では、天保山公園内に砲台の台座の一部が残っており、昭和49年(1974)、鹿児島市の記念物(史跡)に指定された。



●所在地／鹿児島市天保山町(天保山公園内) ●交 通／共月亭前バス停 ●駐車場／無

梶原迫の田の神 ▶かじはらさこのたのみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

[MAP B-12]

寛政拾二年銘の僧型立像の田の神



高さ80cmの長方形の石に丸彫りし、袴姿でコシキのシキをかぶり、左手に腕、右手に杓子をやや傾けて右肩にあてた僧型立像の田の神である。顔はやや欠けているが、

彫刻は全体的にしっかりしており、今は住宅街の一角にたっている。背面は袴の形を一筋の線彫で示しただけで、その袴のすその部分に「寛政拾二年申二月吉日」(寛政拾二年→1800)の銘がある。また近くにも「寛政十二年」の銘のある庚申供養塔が建っている。



昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。

●所在地／鹿児島市宇宿8丁目(中間公民館敷地内) ●交通／永坂入口バス停 ●駐車場／無

若き薩摩の群像 ▶わかさきつまのぐんぞう

記念物／史跡

[MAP E-13]

五代友厚らの上申により、総勢19名の若者が渡英した



鹿児島を表玄関鹿児島中央駅前に、薩摩藩からイギリスに留学し、帰国後日本の近代化を進めた人々の像が立っている。薩英戦争でヨーロッパの力を知った薩摩藩はイギリスに留学生を送ることにし、新納久脩をはじめ総勢19名の若者を選んだ。

スクリーンなど見るもの聞くもの初めてのものばかりで、一行の旅は驚きの連続であった。

ロンドンに着いた留学生は大学に入學し、陸海軍についての学術、科学や文学、医学などを研究した。五代友厚や新納久脩は、留学生とは別にイギリスからヨーロッパを回り、蒸気船や磯の紡績所の機械を購入してきた。

帰国後留学生たちは、北海道開拓に尽くしたり、東京開成学校(今の東大)長、文部大臣、外務大臣などになり、薩摩藩だけでなく日本の文化の近代化のためそれぞれさまざまな働きをした。



●所在地／鹿児島市中央町 ●交通／鹿児島中央駅バス停 ●駐車場／有(駅駐車場・有料)

アメリカ・カリフォルニアでブドウ王といわれた



いそながりこすけ

留学生の1人磯永彦助は、嘉永5年(1852)、上之園町(甲南高校正門前)に生まれた。彦助の父は、外国の事情にもくわしく、家庭的にもめぐまれていた。

彦助は長沢鼎と変名し、わずか13歳で、イギリス留学生に選ばれた。しかし少年のため、た

だ1人スコットランドの古都アバディーンでグラバー邸に下宿し、グラマースクールで勉強した。その後、森有礼らとハリスをたよってアメリカに渡り、ブドウ園で働いた。

やがて、カリフォルニアのフォンテングローブに広い農園をもち、ぶどう酒工場を経営して、ブドウ王といわれるまでになった。

鼎の工場で作られたサクセスワインは、ヨーロッパをはじめ日本にも輸出された。鼎はアメリカに永住して、昭和9年(1934)82歳の生涯を終るまで変名で通した。



●所在地／鹿児島市上之園町(甲南福祉館敷地内) ●交通／高麗町バス停 ●駐車場／無

松方正義誕生地 ▶まつかたまさよしたんじょうち

日本銀行の創設や金本位制の確立など明治前期の経済発展に寄与



松方正義は、天保6年(1835)下荒田町に生まれた。幼名は金次郎、後に正義と改めた。16歳のときから藩に仕え、島津久光(29代当主忠義の父)の側近として働き、大久保利通にその才能を認められ、幕末から明治維新にかけて多くの功績を残している。維新後、日田(大分)県知事、中央政府の民部大丞を経て租税頭として地租改正を実施。また、西南戦争の

際、乱発した紙幣のため起こったインフレを克服するため、明治15年(1882)日本銀行を創設し、紙幣の発行権を独占させ、紙幣は銀貨と交換できるようにした。その後、日清戦争の賠償金3億円を得たのを機会に金本位制を確立するなどして財政面で大きな業績を残している。また、長崎造船所や富岡製糸工場などの官営工場の民間払い下げも実施し、民間の産業を發展させ、明治前期の日本の経済の発展にも寄与している。その後、大蔵大臣や首相を何回も務め、大正13年(1924)死亡、国葬をもって青山墓地に葬られた。



●所在地／鹿児島市下荒田1丁目(松方公園内) ●交通／武之橋電停 ●駐車場／無

荒田八幡宮 ▶あらたはちまんぐう

有形文化財／建造物

【MAP D-14】

産土神、安産の神、マムシ除けの神様として尊崇される

荒田八幡電停の横に、市街地に珍しくこんなもりと茂った大楠の中に、朱色のあざやかな荒田八幡宮がある。祭神は、応神天皇、玉依姫、神功皇后でいつ建てられたのかははっきりしないが、平安時代の末ごろ鹿児島神宮の分社として建てられたものとされている。

八幡さまは、武の神様として全国各地に祭られているが、もともとは清らかな子どもを生むという考えから出たものとされ、今までも安産の神さまとして参拝する人も多く、また、まむしよけの神さまとしても敬われている。境内には、田の神もある。



- 所在地／鹿児島市下荒田3丁目
- 交通／荒田八幡バス停 ●駐車場／有

四随神 ▶よんずいしん

記念物／史跡

荒田八幡宮の荘園を守る神として、東西南北に四随神がある。3年に1度春の彼岸に神輿をかつて四随神をめぐるという。

- 北随神 [MAP D-13]
- 所在地／鹿児島市上之園町(甲南高校脇)
- 駐車場／無 ●交通／甲南高校前バス停
- 東随神 [MAP D-14]
- 所在地／鹿児島市下荒田2丁目(天保山中学校脇)
- 駐車場／無 ●交通／天保山バス停

北随神



東随神



- 南随神 [MAP D-14]
- 所在地／鹿児島市荒田2丁目(知事官舎敷地横)
- 駐車場／無 ●交通／鹿大正門前バス停
- 西随神 [MAP D-13]
- 所在地／鹿児島市田上町
- 駐車場／無 ●交通／天神南バス停

南随神



西随神



川村純義誕生地 ▶かわむらすみよしたんじょうち

記念物／史跡

【MAP D-14】

荒田2丁目に生まれ、西郷従道、仁礼景範とならんで「海軍三元勲」といわれた。

安政2年(1855)、藩から選ばれて幕府の長崎海軍伝習所で学ぶ。明治元年(1868)の戊辰戦争には薩軍四番隊長として参加した。明治以降海軍にあったが、西南戦争が勃発すると先に赴き大山綱良と会うが、西郷隆盛との面会ができず、戦争回避とならなかった。

明治天皇の信任が厚く、昭和天皇や秩父

宮の養育主任となった。明治37年(1904)死去、没後海軍大将となる。



●所在地／鹿児島市荒田1丁目 ●交通／甲南高校前バス停 ●駐車場／無

高島鞆之介誕生地 ▶たかしまものすけたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-14】

弘化元年(1844)上之園町に生まれる。鳥羽・伏見の戦い、戊辰戦争で戦功を立て、のちに陸軍大臣や枢密院顧問官を務めた。また、大阪の追手門学院を創設した。



●所在地／鹿児島市上之園町 ●交通／維新ふるさと館(観光交流センター)前バス停 ●駐車場／有(観光交流センター駐車場)

涙橋 ▶なみだばし

記念物／史跡

【MAP C-13】

旧谷山街道と新川が交わる^かところに架かっている涙橋は、江戸時代、橋の先の処刑場に向かう罪人と家族が、この橋のたもとで最後の別れをしたことから、涙橋と呼ばれるようになったといわれる。橋のたもには、いくつかの記念碑がある。最も大きく目につくのが、涙橋血戦の碑である。この碑は、明治10年(1877)の西南戦争のとき、ここで官軍と戦い戦死した枕崎

出身の西郷軍兵士90名を供養するため建てられた。他に水神碑や、柴立松の碑などがある。



●所在地／鹿児島市南都元町 ●交通／涙橋電停 ●駐車場／無

御船手跡 ▶おふなであと

記念物／史跡

【MAP D-14】

甲突川右岸の天保山中学校の近くに、御船手跡の石碑が建っている。ここは、薩摩藩の船をあずかる役所（御船手）があり、藩船でにぎわったところである。近くには、船頭、水夫、船大工が住んでいた。幕末になると、この人たちは磯につくられた製艦所で洋式の船を造り、乗組員として活躍した。

薩摩藩の御船手は、はじめ春日神社の近くにあったが、稲荷川の川底が浅くなったので新屋敷町船魂神社近くに移り、さらにここに移っ

た。ここには堀や御船手橋もあったが、今では道路になっている。



●所在地／鹿児島市下荒田1丁目 ●交通／天保山バス停 ●駐車場／有・無

御陣屋跡 ▶おじんやあと

記念物／史跡

【MAP D-14】

この付近一帯は天保山訓練場として洋式訓練や砲術、騎兵、工兵などの訓練が行われたところで、島津家28代当主斉彬はここに陣屋を置き、将兵を閲兵したり、各種の訓練を見学したりして、兵士たちを力づけた。

安政5年（1858）7月8日の炎天下に城下の諸隊が参加して大演習が行われた。斉彬は体の不調もいとわず、この陣屋で、終日兵士

の訓練を閲閲した。しかしその夜高熱で倒れ、同月16日、在任わずか7年にして急死した。



●所在地／鹿児島市下荒田2丁目(天保山中学校敷地内) ●交通／天保山バス停 ●駐車場／無

製綿紡績所址 ▶せいめんぼうせきじょあと

記念物／史跡

【MAP B-14】

薩摩藩では、藩船の帆布は大坂から買い入れていたが、外国のものに比べて質が悪く高価であった。島津家28代当主斉彬は日本製の綿布は将来必ず外国のものに打ち打ちできなくなると考え、良質の綿布の生産に努めた。安政2年（1855）中村に足ぶみ機械4台をすえつけた紡績所をつくり、今の鶴ヶ崎一帯で栽培した綿花を原料に農家の子女に木綿を織らせた。

中村紡績所は、日本の機械紡績工場のも

とを作った紡績所といわれている。現在国道225号線沿いに記念碑が建っている。



●所在地／鹿児島市真砂町 ●交通／郡元バス停 ●駐車場／無

荒田村の平田与次郎が広大な塩田を開いた



荒田川にかかる浜橋のあたりは、古くから塩田が広がっていたところである。天保山中学校から海に向かって、荒田川左岸には古田、浜塩田、右岸には上ノ浜塩田があった。

天保年間(1830～1844)、塩づくりをしていた荒田村の平田与次郎は、藩の命令により赤穂(兵庫県)の塩田を視察し、その

後、今の与次郎ヶ浜一带に約10万㎡に及ぶ新しい塩田を開き、天保14年(1843)から塩づくりを始めた。国道をはさんで向かい側には、塩田跡の碑もある。

この与次郎ヶ浜も、昭和40年(1965)から始まった鹿児島開発事業団の水搬送工法による埋立てですっかり様子が変わり、今は、ショッピングセンターや高層住宅が立ち並ぶ街となっている。



●所在地／鹿児島市与次郎1丁目 ●交通／与次郎ヶ浜バス停 ●駐車場／無

製煉所址 ▶せいれんじょあち

島津家28代当主斉彬は、嘉永4年(1851)、^{べにがらす}紅硝子工場の近くに製煉所を建てた。

ここで研究実験したことについて、製煉所址の碑には「島津斉彬公は此の地に製煉所を創設し、理化学を応用した研究をなさしめた。これは日本における工業試験場のさきがけである。その研究の主なもの、^{めんかやく}綿火薬、^{じょうききかん}蒸気機関、^{はんしやろ}反射炉、^{りゆうさん}硫酸、^{しゅうさん}硝酸、^{めんふひょうはく}綿布漂白、^{ようしゅ}洋酒、^{こおりざとう}氷砂糖、パン等である」などの内容が書かれている。



●所在地／鹿児島市鴨池1丁目 ●交通／鴨池バス停, 又は鴨池電停 ●駐車場／無

紅ガラス製造所跡 ▶べにがらすせいぞうしょあと

記念物／史跡

【MAP C-14】

島津齊彬が28代当主になると嘉永4年(1851)、この地に紅硝子工場^{べにがらす}を建て、紅硝子の研究に着手し、数百回実験を重ねて翌年、ついに紅硝子の製作に成功した。これは日本で初めてだといわれる。

紅硝子工場は、安政3年(1856)頃磯の集成館^{さつままきりこ}に移され、薩摩切子や最もむずかしい板硝子などが盛んに製造された。



●所在地／鹿児島市鴨池2丁目(鴨池福祉館敷地内) ●交通／鴨池バス停, 又は鴨池電停 ●駐車場／無

海浜院碑 ▶かいひんいんひ

記念物／史跡

【MAP C-14】

海浜院は、明治38年(1905)、加藤好照^{けつかく}が結核に苦しむ人々のために開設した治療所である。付近一帯は、海に面した松林で、空気もきれいなところで病気の治療に適したところであった。

大正12年(1923)、日本赤十字社がこの病院を引き継ぎ、昭和14年(1939)、平川に移転し、現在、鹿児島赤十字病院と呼ばれている。



●所在地／鹿児島市真砂町 ●交通／真砂保育園前バス停 ●駐車場／無

鴨池の碑 ▶かもいけのひ

記念物／史跡

【MAP C-14】

現在、保健所のあるところは、江戸時代黒木屋敷という薩摩藩家老の別荘があり、その庭内の池に冬になるとたくさんの鴨がやってきた。島津家29代当主忠義^{ちゅうぎ}はここを譲り受け、新たに池を掘り禁猟区にしたのでさらに鴨の数がふえ、人々はここを「鴨池」とか「鴨堀」と呼び、これが鴨池の地名になった。大正5年(1916)ここに動物園が設置され、多くの市民に親しまれてき

たが、昭和47年(1972)平川町に移転した。



●所在地／鹿児島市鴨池2丁目(鴨池児童公園内) ●交通／鴨池バス停 ●駐車場／無

甲突川五石橋 こうつきがわごせっきょう

平成5年の大水害で新上橋と武之橋が流失、西田橋、高麗橋、玉江橋は移設
島津家27代当主齊興が、肥後国（熊本県）の石工、岩永三五郎を招いて造らせたもので
ある。甲突川には、上流から玉江橋、新上橋、西田橋、高麗橋、武之橋の5つのみごと
な石橋がかけられた。

西田橋 ▶にしだばし

県指定／有形文化財／建造物 【MAP G-15】



西田橋は、弘化3年（1846）新上橋につづいて造られた。この橋は、鹿児島城下の表玄関にあたり、参勤交代の通路でもあったので、豪華に造られた。橋の欄干に青銅の擬宝珠がとりつけられ、橋の入口には、屋根のついた大きな門が立ち、番所があった。5つの橋の中でも立派なできばえで、岩永三五郎のいちばんの傑作であった。橋の長さは49.5m、幅は6.2mで、4つのアーチからできていた。5つの石橋には、小野石などの溶結凝灰岩が使用され、福山権太郎・今村五郎・宝地三五郎などの小野村の石工をはじめ、多くの人々がこの工事に従事した。空にかかる虹のような美しいアーチをえがく西田橋は、鹿児島市の中央を流れる甲突川に影を落として、人々に親しまれていた。西田橋は昭和28年（1953）、鹿児島県の有形文化財（建造物）に指定された。

平成5年（1993）の水害の後、甲突川河川改修工事のため石橋記念公園に移設された。

- 所在地／鹿児島市浜町（石橋記念公園内） ●駐車場／有
- 交通／シティビュー 石橋記念公園前バス停

高麗橋 ▶こうらいばし

有形文化財／建造物 【MAP G-15】



高麗橋は、西田橋ができた翌年、弘化4年（1847）に竣工した橋で、五大石橋では3番目の橋である。長さは、54.9mで、幅は5.4mであった。

この橋は、岩永三五郎の監督のもとに、地元の山田龍助や原田孫之進、田中源次郎などが中心となって工事を進めたといわれる。

このあたりは、安土桃山時代のころ島津家17代当主義弘が朝鮮出兵のとき連れ帰ってきた朝鮮の陶工たちを住まわせたところで、高麗町や高麗橋の名はここからきている。

平成5年（1993）の水害に伴う甲突川の改修のため、石橋記念公園に隣接する祇園之洲公園に移設された。

- 所在地／鹿児島市清水町（祇園之洲公園内） ●駐車場／有
- 交通／シティビュー 石橋記念公園前バス停

武之橋 ▶たけのはし

有形文化財／建造物 【MAP D-14】

嘉永元年（1848）、甲突川にかかる五大石橋の中で4番目につくられたのが、ここに架かっていた武之橋である。



下流から見た武之橋（流失前）／写真：熊副 稜

この橋だけが五つのアーチを持ち、長さは71mで、江戸時代につくられた石橋の中では日本一を誇っていた。橋の幅も5.5mとかなり広く、鹿児島から谷山を経て薩摩半島に通じる重要な通路となっており、人や牛車、馬車がひんぱんに通行していた。

当時は、今より勾配が急なため、荷馬車などは手前から勢いをつけ、一気にかけ登るようにして橋を渡ったという。

平成5年（1993）の水害で流失してしまった。

- 所在地／鹿児島市下荒田1丁目・新屋敷町
- 交通／武之橋電停 ●駐車場／無

新上橋 ▶しんかんばし

有形文化財／建造物

【MAP E-13】



上流から見た新上橋（流失前）／写真：熊副 稜

五大石橋の1つで、弘化2年（1845）五大石橋の中で1番最初に造られたもので、岩永三五郎が初めて手がけた長い石橋であった。

長さ46.8m、幅4.8m、中央のアーチの頂点から河床までの高さは4.2m、アーチは4連であったが、平成5年（1993）の水害により流失してしまった。

- 所在地／鹿児島市鷹師2丁目 ●駐車場／無
- 交通／新上橋バス停

玉江橋 ▶たまえばし

有形文化財／建造物

【MAP G-15】



玉江橋は五大石橋の中で最後にかけられたもので、長さ50.7m、幅4mで、3番目に大きい橋である。他の橋と違い横から見ると、ほとんど直線になっている。橋のつくりは基礎になる石が大きく、広い面積にわたってしきつめられ、水切石も大きく丈夫にできていた。そのため、多量の水の流れにもびくともしなかったといわれる。

橋がかけられたのは嘉永2年（1849）で、前年に五大石橋の推進者であった調所広郷が江戸藩邸で自害している。また岩永三五郎も嘉永2年（1849）に鹿児島を去っているため、玉江橋の完成を見届けたかどうか分からない。

平成5年（1993）の水害による甲突川の河川改修工事に伴い、石橋記念公園に隣接する祇園之洲公園に移設された。

- 所在地／鹿児島市清水町（祇園之洲公園内） ●駐車場／有
- 交通／シティビュー 石橋記念公園前バス停



旧鹿児島刑務所正門 ▶ きゅうかごしまけいむしょせいもん

県指定／有形文化財／建造物

【MAP F-13】

我が国では珍しい西洋中世の城門風のデザイン



旧鹿児島刑務所正門は、明治41年(1908)に、欧米の監獄を視察した司法省管轄課の山下啓次郎が設計して竣工したとされている。建築様式は、ネオゴシック様式のルスティカ積み^{ルスティカ}の石造建築物である。

旧正門は2階建て、左右端に八角形の相塔を備え、中央部には大きなアーチの出入り口を設け、その上部にはパラ窓風の開口

部がある。塔頂部にはバトルメントがつけられ、バットレストとともに西洋中世の城門風のデザインとなっている。

西洋中世の城門風の意匠は、わが国の建築では非常に珍しいもので、いかにも刑務所の正門の性格をよく表していておもしろい。その点から考えても明治建築の中でも際立った貴重な遺産とも言える。

鹿児島刑務所は、昭和60年(1985)に湧水町(旧吉松町)に移され、今は正門だけが残る。

平成27年(2015)、鹿児島県の有形文化財(建造物)に指定された。



●所在地／鹿児島市永吉1丁目(鹿児島アリーナ敷地内) ●交通／鹿児島アリーナ前バス停 ●駐車場／有(鹿児島アリーナ・有料)

西田の田の神 ▶ にしだのたのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-13】

安永二年銘の石面を広く残す田の神



西田小学校の敷地内に浮彫りの田の神舞神職型の田の神がある。

像の大きさは、高さ約57cmの立像で、右手には大きな杓子を持ち、左手には椀を持って

いる。そして、大きなコシキのシキをかぶり、長い袖の上着に袴をつけ、足を開いて踊っているように見える。石の面を広く残したところに、この田の神の特徴が見られる。

石の裏側には、「安永二年正月十六日 奉供養庚申講 西田名二才中」と刻名されているので、西田村の青年(二才)たちによって安永2年(1773)に造られたことがわかる。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市薬師町2丁目(西田小敷地内) ●交通／西田小前バス停 ●駐車場／無

児玉家住宅主屋・児玉家住宅井戸屋・児玉家住宅表門

▶こだまけじゅうたくしゅおく・こだまけじゅうたくいどや・こだまけじゅうたくおもてもん

国登録／有形文化財／建造物

【MAP E-12】

内部にモダニズムの表現が見られる上質な和風住宅

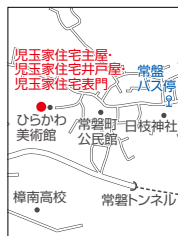


主屋はL字形平面の住宅で、南面に玄関を構え、庭側に座敷を配して縁をめぐらせる。杉などの良材を厳選し、施工も入念である。伝統的な和風意匠を基調としつつ、内部にモダニズムの表現が見られる上質な

和風住宅である。

敷地東端に構える表門は、三間一戸、切妻造椽瓦葺である。また井戸屋は主屋南西側の崖下に建っている。溶結凝灰岩の切石を布積みして、貯水槽を造っている。

平成26年(2014)、国の有形文化財(建造物)に登録された。



●所在地／鹿児島市常盤1丁目(ひらかわ美術館) ●交 通／常盤バス停 ●駐車場／有(ひらかわ美術館・有料)

武一丁目の田の神 ▶たけいっちょうめのかみ

市指定／有形民俗文化財／民俗資料

【MAP E-13】

力強く踊っているように見える田の神



武幼稚園の中に、高さ約107cmで、コシキのシキをかぶり、右手に杓子、左手に腕を持ち踊っているような姿をした力強い感じの田の神がたっている。

この田の神は安永7年(1778)の作とされ、

浮彫りで田の神舞神職型の立像である。武幼稚園が開園したとき、近くの田んぼのあぜ道からここに移された。田の神のとなりには、庚申供養塔もある。

昭和57年(1982)、鹿児島市の有形民俗文化財(民俗資料)に指定された。



●所在地／鹿児島市武1丁目(武幼稚園内) ●交 通／JR鹿児島中央駅 ●駐車場／無

小松帯刀屋敷跡 ▶こまつたてわきやしきあと

記念物／史跡

【MAP F-12】

薩摩藩の倒幕体制の要となつたまぼろしの宰相



かけごしバス停の先を左に折れ、せまい路地を行くと、高い石垣の小松屋敷跡がある。

帯刀は、天保6年(1835)喜入領主肝付家の三男として生まれ、20歳で吉利の領主小松家の養子となり、小松帯刀と名を改

めた。

子供の頃から学問や武芸にすぐれ、27歳で藩の家老になり、西郷隆盛や大久保利通など有志の下級武士を重く用いた。寺田屋事件、生麦事件、薩英戦争を乗り切り、薩長同盟を結ぶなど明治維新に活躍した。土佐の浪士坂本龍馬が、この屋敷に宿泊したこともある。

維新後も外交官、副知事など要職についたが、惜しくも34歳という若さで病死した。墓は日置市吉利にある。



●所在地／鹿児島市原良4丁目 ●交通／かけごしバス停 ●駐車場／無

西郷家の墓 ▶さいごうけのはか

記念物／史跡

【MAP E-12】

隆盛の父母をはじめとする西郷家の祖先の墓



薬師保育園の近くに、西郷家の墓がある。ここに、隆盛の父母をはじめ、西郷家の祖先の墓が23基ならんでいる。これらは、もとは南林寺墓地にあったが、大正年間(1912～1926)の鹿児島市の都市計画に

よって、今の場所に移された。

このあたり一帯は、尾畔と呼ばれ、昔は田んぼが広がり、景色の美しいところであった。三國名勝図会に春は桜が咲きみだれ、夏はほたるが飛びかい、秋はもみじが美しく、冬は鳥の声で目をさましたと書かれている。



●所在地／鹿児島市常盤町 ●交通／かけごしバス停 ●駐車場／無

千眼寺跡 ▶せんげんじあと

記念物／史跡

【MAP E-13】

薩英戦争のとき薩摩藩の本陣となる



西田小学校のすぐ近くに、万徳山千眼寺の跡がある。

島津家25代当主重豪が、文化2年(1805)に荒田村からここに再建したものである。千眼寺は、禄高300石、京都の万福寺につながる寺で黄檗宗の寺院であった。

明治初めの廃仏毀釈によって寺は壊され、いまは、井戸や智福和尚の石像が残っているだけである。また、この寺の境内は島津久光・29代当主忠義親子が、文久3年(1863)の薩英戦争の時に、イギリス艦隊の砲撃をさけて、戦争の指揮をとったところでもある。



●所在地／鹿児島市常盤町 ●交通／西田小前バス停 ●駐車場／無

八田知紀誕生地 ▶はったものりたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-12】



八田知紀(喜左衛門)は、寛政11年(1799)西田村に生まれた。

京都の薩摩藩屋敷の蔵役人になり、桂園派の歌人香川景樹の門弟になった。よく歌

をよみ号を「桃岡」とした。後に、自分の歌集「桃岡雑記」をまとめ、明治になると、宮内省の歌道御用掛に選ばれて活躍し、明治6年(1873)東京で74歳の生涯を終えた。

なお、八田知紀の閑居の地であった桃岡公園には、桃岡八田先生幽栖之地の記念碑が建っている。



●所在地／鹿児島市常盤町 ●交通／常盤バス停 ●駐車場／無

歌人税所敦子宅の跡 ▶かじんさいしよあつこたくのあと

記念物／史跡

【MAP E-13】

税所敦子は、文政8年(1825)京都に生まれ、京都の薩摩屋敷に仕えていた税所篤之の後妻になった。和歌や絵画にすぐれ、島津家28代当主斉彬の子、哲丸の守役のあと宮内省に入り、女官として26年間、天皇、皇后に仕えた。



●所在地／鹿児島市鷹師1丁目(西田温泉前) ●交通／西田橋バス停 ●駐車場／無

後醍院真柱の誕生地 ▶ごだいいんまはしらのたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-13】

文化2年(1805)国学者大河平隆棟の次男として生まれ、後醍院家の養子となった。平田篤胤に国学を学び、造士館訓導、明治政府の役人、吉備津宮神社の宮司を務めた。著書として「神代三陵志」「参宮日記」「東行日記」などがある。



●所在地／鹿児島市薬師1丁目 ●交通／鶴丸高校前バス停 ●駐車場／無

永山武四郎誕生地 ▶ながやまたけしろうたんじょうち

記念物／史跡

【MAP E-13】

永山武四郎は、天保8年(1837)西田村に生まれた。

戊辰戦争で会津との戦いで名をあげ、陸軍大尉となった。その後、屯田兵本部長北海道長官として、北海道の開拓に尽くした。



●所在地／鹿児島市薬師2丁目 ●交通／鶴丸高校前バス停 ●駐車場／無

西郷武屋敷跡 ▶さいごうたけやしきあと

記念物／史跡

[MAP E-13]

西南戦争までの4年間、晴耕雨読の日々を過ごした



明治6年(1873)西郷隆盛は、いわゆる征韓論に破れて鹿児島に帰り、明治10年(1877)の西南戦争までの4年間、この屋敷で過ごした。

屋敷は明治2年(1869)薩摩藩の上級武士から譲り受けたもので、敷地約3600㎡、高緑の御殿づくりで部屋数も多く庭には大きな松の

木もあったという。西南戦争で焼失したが、明治13年(1880)弟従道が再建した。いま屋敷跡は公園になっており、当時の井戸が残っている。

ここでの西郷の生活は、まさに晴耕雨読の生活で吉野や西別府で農耕に励んだり、県内各地で狩猟を楽しんだり、また私学校を創設し、青少年の教育にあたるなど「武村の吉」として悠々自適の暮らしを送った。また、沖永良部流刑中に出会った川口雪蓬を同居させ、付近の子供たちの教育にあたらせている。



●所在地／鹿児島市武2丁目(西郷公園内) ●交通／武2丁目バス停 ●駐車場／無

田上水車館織機場跡 ▶たがみすいしゃかんはたおりばあと

記念物／史跡

[MAP D-12]

薩摩で最初に紡績機械を用いた紡績工場



島津家28代当主斉彬は殖産興業の振興に努め、すぐれた業績を残しているが紡績事業もその1つである。斉彬は質の良い帆布を自給するため、長崎から外国製の紡績機械を買い入れ、田上村と永吉村に薩摩で最

初の機械紡績工場をつくった。安政4年(1857)のころから生産を始め、慶応3年(1867)磯に洋式紡績工場ができるまで約10年間続けられた。

田上水車館は、田上川の水を引き動力として利用、1台の水車で4台の織機を動かす帆布だけでなく他の布類も織っていたという。製品はこれまで大坂から買い入れたものより約3割も安くついていたといわれる。



●所在地／鹿児島市田上1丁目(美尾崎公園内) ●交通／田上バス停 ●駐車場／無

雄風亭記碑 ▶ ゆうふうていきひ

記念物／史跡

【MAP E-12】

前後左右4面に文字が刻まれている。天明7年(1787)に文字が刻まれている。天明7年(1787)に碑文の作成は造士館教授・山本正誼とある。

島津家25代当主重豪が遊覧のために尾畔山頂に雄風亭をつくった。碑文の内容は、この「雄風」命名の由来に関するもので、

君主たるものが領民を治めていくうえでの心構えが込められている。



●所在地／鹿児島市業師2丁目(旧城西高校グラウンド奥) ●交通／かげごしバス停 ●駐車場／無

肥薩線開通記念碑 ▶ ひさつせんかいつうきねんひ

記念物／史跡

【MAP F-13】

明治42年(1909)の国鉄肥薩線開通を記念して旧刑務所前の甲突川べりに495本の桜を植えた時に建てられた碑である。

また、栢木馬場の石碑があるが、島津家27代当主斉興が栢の木を植えさせたところである。この木から採れる木ろうは、藩の特産物になった。



●所在地／鹿児島市永吉町(鶴尾橋近く) ●交通／鹿児島アリーナ前バス停 ●駐車場／無

鹿児島戦没者墓地 ▶ かごしませんぼつしゃぼち

記念物／史跡

【MAP G-12】

ここには、日露戦争の歩兵第45連隊の591名をはじめ、済南事件、満州事変、日中戦争、第2次世界大戦の戦没者が葬られている。もとは陸軍墓地と呼ばれていた。



●所在地／鹿児島市永吉町(永吉公園) ●交通／永吉町バス停 ●駐車場／無

諸禽供養塔 ▶ しょきんくようとう

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP F-12】

昔、この一帯は鷹狩場であったといわれるが、軍隊訓練や、その他の理由で殺された鳥や獣を祭って建てられたと思われる供養塔が2基ある。



●所在地／鹿児島市原良4丁目 ●交通／かげごしバス停 ●駐車場／無

水神碑 ▶すいじんひ

記念物／史跡

【MAP D-13】

久保橋の近くにある水神碑は、文化3年(1806)鳥津家26代当主斉宣が奉行平田平右衛門に命じ、田上川(境川)の流れを変え、鴨池から郡元にかけて約400haの新田を開発したときの河川改修記念碑である。

となりには、荒田八幡宮の四随神の1つである西随神の祠がある。



●所在地／鹿児島市田上町 ●交通／天神南バス停 ●駐車場／無

毘沙門天 ▶びしゃもんでん

有形文化財／彫刻

【MAP D-12】

地元の人々は、仏舎門と呼んでいるが、高さ40cmほどの立像の寄木造りの仏像で、村の長老が鳥津郎からもらい受け、地区の守護神にしたと伝えられている。



●所在地／鹿児島市田上町 ●交通／田上寺ノ下バス停 ●駐車場／無

広木の田の神 ▶ひろきのたのかみ

有形民俗文化財／民俗資料

【MAP C-11】

高さ69cm、立像の僧型の田の神で、コシキのシキをかぶり右手に杓子、左手に棒を持っている。

享保3年(1718)の頃つくられたのではないかと考えられる。



●所在地／鹿児島市田上町 ●交通／広木農協前バス停 ●駐車場／無

西郷南洲野屋敷の跡 ▶さいごうなんしゅうのやしきのあと

記念物／史跡

【MAP E-10】

鹿児島実業高校の向側の山手に入ったところに、西郷野屋敷の跡の碑が建っている。ここは、西郷が青年時代、困窮した家計を助けるために開墾して甘藷を植えたところである。屋敷跡にある揚梅や大名竹は西郷が植えたといわれている。



●所在地／鹿児島市西別府町 ●交通／文化工芸村バス停 ●駐車場／無

薩摩暦

江戸時代、日本には暦が二つあった。その一つが鹿児島で作られた薩摩暦である。幕府は貞享2年(1685)に、新たに貞享暦という暦をつくった。幕府はこの改暦を機会に、ばらばらだった日本中の暦を貞享暦に統一し、各地の暦の作成を禁止したので、暦は全国で同じものが使われるようになった。

ところが、薩摩藩においては、この改暦以後も幕府の許可を得て、藩独自の薩摩暦をつくって藩内だけで使用していた。寛政年間(1789～1801)以後の薩摩暦が多数点現存している。暦のほか、秤・杵なども薩摩独自のものが使われていたといわれている。

薩摩暦が許されたのは、薩摩が中央から遠く離れて、暦本を容易に入手できないという事情によるとされているが、琉球貿易の問題と関連して特例が認められたともいわれている。

暦の形式・暦注の部分は琉球で使用されていた中国清時代の時憲暦の形式を取り入れ、記載事項にも時憲暦のものを多く取り入れていたので、幕府の暦とはかなり異なる独自の暦であった。

薩摩暦は、鹿児島における日の出・日の入りの予想時刻や日食・月食については発生時刻や欠けた部分の面積だけでなく、欠けゆく方向までほぼ正確に予測できている。面白いことに暦の下段に、その日の運勢が記されて

いる。

薩摩藩では薩摩暦をつくるため暦官をおき天文観測を行った。そして幕府が改暦するたびに暦官を江戸へ派遣し、新暦法を修得させたので優秀な天文学者を輩出した。江戸時代の薩摩藩の天文学はほかの藩の水準をはるかに超えていた。

宝暦13年(1763)9月1日の日食を、幕府は太陽の欠ける割合を三分、薩摩は四分と予想した。予想が分かれたが、結果は薩摩暦が的中して有名になった。

島津家25代当主重豪は安永8年(1779)に暦局の設置を命じ、中福良(鹿児島市天文館通り)に天文台の設置を定めた。これが天文暦学研究、薩摩暦編纂の施設である明時館である。明時館は天文館とも呼ばれた。「天保年間城下絵図」によると、明時館の周囲は塀で囲まれ、数棟の建物と天体観測用のドーム状の建物があった。

領内の暦はここから発行されることとした。これが薩摩暦、又は鹿児島暦である。

薩摩藩の施設は、版籍奉還に伴って、明治2年(1869)に廃止されたが、明時館もこの時に廃止されたと思われる。

現存しているもっとも新しい薩摩暦は、水間良包が作った明治2年(1869)のもので、これが薩摩暦の最後のものと思われる。



薩摩暦(鹿児島県立図書館所蔵)



天保年間鹿児島城下絵図の天文館記載部分
(鹿児島県立図書館所蔵)